

経験・知識・心をつなぐ会報誌

# CHOFU Network



撮影者雄感

**小川淳四郎** 1966年 電波工学卒

四月中旬、山梨県の高原地帯は桜の季節である。桜は一言に派手に咲きまくる限りという思い込みの故か、この春に巡った小淵沢神田の大系桜、山高の神代桜など老銘木はそれなりに満開で美しかったが何か物足りなさを感じ不満が残った。残雪の甲斐駒ヶ岳を背に華やかに咲き揃う染井吉野の並木に出会ってやっと桜の春を実感し心が満たされた。

## CONTENTS

巻頭論壇	<b>本学が初めて経験した危機管理</b> 電気通信大学長 梶谷 誠	2
	目黒会のホームページを大幅リニューアル! 目黒会事務局	4
	<b>東日本大震災により被災された皆さまへ</b> 目黒会会長 安田耕平	5
	義援金にご協力をお願い! 目黒会事務局	6
	平成23年度電気通信大学同窓会賞表彰式報告	7
	平成22年度目黒会賞受賞者一覧	8
	<b>退任のご挨拶</b>	9
	松井正之 / 鈴木健二 / 藤野 忠 / 仁木國雄 / 才木良治 / 岡野 豊 / 藁科 崇 / 富永倫彦 / 初貝丈義	
	<b>社団法人目黒会の「法人移行計画」について</b> 目黒会事務局	14
	<b>ベトナム ハノイに会社を設立して感じたこと</b> 佐藤道明	18
	最新マーケティング・トレンド 第5回「 <b>電子書籍の衝撃2</b> 」 柳本信一	20
	<b>子供達が好奇心で夢中になる科学の遊び</b> 竹内幸一	23
	<b>UEC・NOW 電気通信大学はいま</b>	26
	平成22年度 就職委員会活動報告 / サテライト・ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー( SVBL )	
	<b>新連載 電気通信大学藤沢分校物語</b> 近藤俊雄	30
	<b>COLLINSと共に生きた我が人生</b> 大久保忠昭	34
	学窓から戦場へ <b>航空無線通信士14歳の出陣</b> (第12回) 水谷 弘	38
	<b>放送よもやま話・第12話</b> 石田武久	43
	<b>members' voice</b> <b>水処理について(7)</b> 佃 宣明	50
	<b>電気通信大学の学園紛争と機動隊導入</b> 西垣 登	52
	<b>異色の風雲児「小日向白朗」</b> 倉井永治	54
	<b>支部・クラス会</b>	63
	支部だより北海道支部 / 関西総支部「秋の懇親会」 / H22東海支部総会 / 「リサーチ35の会」卒業50周年記念会 / 電通大38T 入学 ヲラス会報告	
	<b>NEW STAGE</b> 新たな舞台で輝くOBを誌上訪問 <b>動物園は現代の「ノアの箱舟」</b> 酒井裕司	69

第68回定期総会開催のお知らせ  
第61回調布祭ご寄付のお願い  
飯島澄男特別栄誉教授 学士院新会員へ!  
平成23年新年交歓会報告  
正会員募集!

ボランティア募集中  
第54回目黒会移動体通信研究会開催予告  
リサーチ日記  
寄付・訃報  
編集後記

# 本学が初めて経験した 危機管理

電気通信大学長 梶谷 誠

## はじめに

3月11日の大地震は日本を大混乱に陥れ、未だ収束の見通しも立っていません。

この巻頭論壇の締切日がちょうど3月11日で、少し遅れて執筆中でした。

しかし、このような事態になり、急速地震の本学への影響についての報告に代えさせていただきます。

## 地震直後の被害状況

地震の直後、学内の人的及び物的被害の調査を致しました。幸い、学内の学生や職員にケガ等の傷害はなく、建物の一部で、水漏れ、床や壁のひび割れ、窓ガラスの割れなど比較的軽微な被害ですみま

した。また、ほぼ全てのエレベータが自動停止し、防火扉のいくつかは自動的に閉鎖しました。図書館や研究室の図書など、棚にあったものが床に落下した例は多かったようです。

## 翌日の入学試験を中止

地震の大きさが尋常ではなかったため、学長室に危機管理連絡室を設置しました。前記の被害状況と応急措置を確認後、翌12日に控えていた学部の個別学力試験(後期日程)への対応に集中しました。地震発生後数時間しか経っていない状況で、事態が刻々と変化し、余震や交通機関のマヒ状況など不確定要

因が多過ぎました。不確定であればあるほどリスクが高くなりますから、翌日の試験は断念すべきだと思いました。しかし、できれば東京地区の国立大学が同一歩調で中止できればと、国大協に電話しましたが通じず、電子メールを出しました。

その後、インターネットで他大学のホームページを

ウォッチしながら、国大協からの返事を待ちました。そのうち、他大学のホームページに、予定通り試験を実施するとの通知が出始めました。国大協からの応答もないので、本学も決断を迫られました。この時点で、中止を表明している大学はありませんでしたが、私は「こういう時に決断するのが学長の役目だから、中止する」との方針を明確にしました。これで、学長室に居た関係者も皆ふっきたようで、中止の措置を

見事なチームワークでこなしてくれました。

同日夜18時46分、ホームページ上に、試験を3月19日(土)に延期する旨を案内しました。加えて、その後の電話等での問い合わせ、翌12日に大学に来た受験生への対応などアフターケアに万全を期しました。

ちなみに、当初試験を予定通り実施するとした大学の多くは、その後中止せざるを得ませんでした。

## 学長代行による指揮

---

週明けの14日から計画停電という新たな予期せぬ環境変化が起こります。

計画停電のため、14・15両日、小田急線その他の交通機関の運休区間の影響で、私は出勤が困難になりました。そこで、14日早朝、福田理事を学長代行に指名することを役員会メンバーに伝え、指揮を一任しました。

この日、役員会や入試委員会がすばやい結論を出

し、19日に延期した個別学力試験を実施せず(計画停電のため)大学入試センター試験の成績を基に可否を判定することを発表しました。

また、情報インフラの停電によるダメージを最小限に抑えるため、停電中も稼働させるサーバーの優先度を定め、情報基盤センターの自家発電装置の運用方針を決めることができました。

## 卒業式・修了式の挙行

---

例年開催される退任記念祝賀会(14日予定)が中止されるなど、14日以降学内で開催予定であった全ての行事が中止になりました。

しかし、24日開催予定の卒業式・修了式を安易に中止するわけにはいかないと思いました。すでにいち早く中止を表明している大学も多く出ていましたが、

本学は24日時点でのリスクを慎重に検討し、開始時刻を30分繰り下げるだけで、予定通り実施することを18日にホームページで発表しました。その理由については、本学ホームページの学長コラムや卒業式の学長式辞で説明しています。同時に、入学式も予定通り実施することを表明しています。

## おわりに

---

この事態は、本学が初めて経験する危機管理事象です。4月に新学期が始まると、計画停電が続く中で授業をどうするのか、特に夜間主コースの授業は

致命的な打撃を受けます。また、被災学生に対する経済的支援、授業の受講遅れに対する支援などが必要です。難問が山積しています。



# 4月1日 目黒会のホームページを大幅リニューアル!!

目黒会 HP の新 URL は <http://megurokai.jp/>  
 現 HP ( <http://www.megurokai.or.jp/> ) は現存のまま当分の間残します

## 新 HP の特長は

携帯電話からのアクセスにも対応  
 目黒会、電通大に関するニュースをタイムリーに速報  
 ツイッターや動画もとりいれ、楽しさいっぱい!

The screenshot shows the homepage of Meguro Kai with several callout boxes pointing to specific features:

- メインメニュー**: Points to the top navigation bar.
- 重要なお案内は目立つ場所に**: Points to the main announcement area.
- カレンダーに目黒会や大学の行事予定を表示(詳細も)**: Points to the calendar section.
- 新着情報で最新ニュース**: Points to the news section.
- 携帯用 URL を QR コードで掲示**: Points to the QR code for mobile access.
- ツイッターに流れる目黒会や電通大に関するつぶやきを時々刻々掲示**: Points to the Twitter search section.
- 当月の目黒会、電通大の行事予定**: Points to the monthly event schedule.
- 電通大 HP 上の新着情報**: Points to the news from Chitose University of Science and Technology.
- 新聞報道の中の電通大情報**: Points to news reports about Chitose University.

2011年3月11日に発生した東日本大震災により、  
お亡くなりになられた方々のご冥福を  
お祈り申し上げます。  
被災された方々には  
謹んでお見舞い申し上げますとともに、  
一日も早い復旧・復興を心よりお祈り申し上げます。

確認される死者の数も日毎増え、被災者の皆様のご苦勞や放射能被害の  
心配も続いていることと拝察申し上げます。

目黒会東北支部からは、木村支部長はじめ会員の方々が無事であるとい  
う情報がいち早く届けられました。毎年東北支部の会合に参加されて  
いる方で安否の確認が取れていない会員もまだいらっしゃるかと伺って  
おります。ご無事をお祈りいたしております。

5、6年前に東北支部総会の会場としてよく使用した、一高一期の方が  
経営されていた料理旅館は海辺であったため全て流失してしまったよう  
です。(経営者の方は数年前にすでにお亡くなりになっています。)

一方世界中から応援のメッセージや応援物資も届けられています。

いまこそ日本人が心と知恵を合わせ、現在の苦難を乗り越えていきたい  
と思います。

被災された方々にあらためて、衷心よりお見舞い申し上げ、目黒会とし  
て出来る限りのご支援をお約束いたします。

平成23年3月

目黒会会長 安田 耕平

## このたびの東日本大震災の被害に遭われた方々への 義援金にご協力をお願い

このたびの震災で被害を受けられた方々に心からのお見舞いを申し上げます。

被災者の方々の一刻も早い再起・復興に役立ててもらうため、目黒会は、電気通信大学の義援金募集活動に全面的に協力し、3万人超の会員の大きな輪で支援してゆくことにいたしました。会員の皆様にはその趣旨に是非ご賛同をいただき、温かいご支援をたまりたく、よろしく願い申し上げます。

詳しくはホームページまたは下記をご覧ください。

目黒会 HP <http://megurokai.jp/> (新ホームページです)

電気通信大学 HP <http://www.uec.ac.jp/>



国道 6 号線から太平洋を臨む  
東北支部 荒井薫氏 (S59E) 撮影

### 記

以下は電気通信大学ホームページから抜粋した地震義援金の詳細です。

電気通信大学の義援金活動は2種類があり、いずれも5月31日 まで受付けています。

#### 「東北地方太平洋沖地震被災者義援金」

この義援金は、全額、日本赤十字社を通じて、被災者および被災地域の援助・復興の資金として使われます。

口座番号：三菱東京UFJ銀行 本店「普通 7882816」

口座名：国立大学法人電気通信大学震災義援金

#### 「電気通信大学被災学生義援金」

この義援金は、今回の被災等により、経済的支援が必要な電気通信大学学生への奨学寄附金として使われます。

口座番号：三菱東京UFJ銀行 本店「普通 7882803」

口座名：国立大学法人電気通信大学学生義援金

銀行などから直接振り込まれる場合は、上記の2種類から選んで、または両方に、入金口座をお確かめのうえお振込みください。お振り込みには手数料がかかりますが、恐縮ですがご負担をお願いします。

いずれの義援金も所得税の「寄付金控除」制度の対象となりますので、受領証をご希望の方は、氏名、住所、電話番号を明記のうえ、振込用紙（コピー可）など振込み内容が分かるものを添えて、下記までご郵送下さい。後日、受領証を発行（郵送）させていただきます。

（受領証請求先）〒182 - 8585 東京都調布市調布ヶ丘1 - 5 - 1 電気通信大学 義援金担当

# 平成23年度 電気通信大学同窓会賞表彰式報告

平成23年4月5日



3月11日に発生した東日本大震災のために、挙行するか心配された入学式が例年通り行われました。例年は桜吹雪の中で行われる電気通信大学入学式も今年はしっかりと花をつけた状態でした。入学式に引き続き、平成23年度電気通信大学同窓会賞表彰式が行われました。今年度は武田光夫氏が受賞され、表彰式に引き続いて行われたご講演で、武田氏からは今回の東日本大震災と原発の問題を例に技術者としてどうあるべきかお考えが示され、入学生の若い諸君に日本の復興を託したいとの話がありました。<この後武田先生から、同窓会賞副賞の全てを、大学が実施している「電気通信大学被災学生義援金」に寄付して欲しいとお申し出があり、そのように手続きいたしました>

(目黒会事務局 事務局長 江尻貞明 / 記)



平成23年度電気通信大学同窓会賞

## 武田 光夫 氏

(1969年電波工学科卒業)

### 推薦者のことば

電気通信大学レーザー新世代研究センター 共同研究委員 清水富士夫

武田光夫氏は応用光学分野の世界を代表する研究者の一人であり、光学干渉計測に関する研究で大きな成果を上げてきました。特に、氏が発明した新しい三次元干渉計測法は独創的でインパクトの大きな研究です。これは、この研究を発表した二つの論文(業績説明書の文献1と2)の被引用数が2000に達し、発表後20数年をたった今でも平均被引用数を越えた引用を受けていることをみても判ります。

武田氏は自らの研究、教育のみでなく、日本光学会、応用物理学会をはじめとして多数の国内、国外の団体の委員などをつとめることで広く科学技術の発展に貢献しています。これらの業績により、2007年に「フーリエ変換縞解析法の開発と光応用計測分野への応用」に対して第1回応用物理学会フェロー表彰を受け、2010年には光学分野の世界トップの賞である国際光学会(SPIE) Dennis Gabor Awardを受賞しておられます。

武田氏が同窓会賞を受賞されることになり、本学を卒業し世界を代表する研究者が本学を選んで学生の教育に当たっていること、また、本学がそのようなレベルの高い研究を可能にする環境を備えていることを広く知らせることができ、在学生や本学を目指す学生にとって大きな励みになると思われまふ。

#### 受賞者経歴

1969年 電気通信大学・電気通信学部・電波工学科卒業  
1971年 東京大学大学院・工学系研究科・物理工学専攻修士課程卒業(工学修士)  
1974年 東京大学大学院・工学系研究科・物理工学専攻博士課程卒業(工学博士)  
1974～75年 日本学術振興会奨励研究員(東京大学・生産技術研究所)  
1975～77年 キヤノン株式会社・社員(中央研究所配属)

1977～80年 電気通信大学専任講師

1980～90年 電気通信大学助教授

1990年～ 電気通信大学教授

#### 受賞、表彰

2007年 第1回応用物理学会フェロー表彰。

2010年 国際光学会(SPIE) Dennis Gabor Awardを受賞。

2010年 Fellow of SPIE, OSA (Optical Society of America) and 応用物理学会

#### 電気通信大学同窓会賞とは

電気通信大学は現在までに多数の卒業生を世界に送り出しています。世界の各方面で活躍している卒業生のうち、科学技術の研究業績が特に顕著な方に、電気通信大学同窓会「社団法人目黒会」が「電気通信大学同窓会賞」を授与し、その功績を講え、同窓生の方々にも広く認めていただくことにしているものです。

# 平成22年度 目黒会賞受賞者一覧 (平成23年3月24日)

**情報通信工学科 (C学科)**

川名 優  
川根 優也  
徐 美璟  
竹市真理子  
春野 友哉  
以上5名

**情報工学科 (J学科)**

DO HANG NGA  
白田 静哉  
塩見 光弘  
及川 永寿  
森 大道  
以上5名

**電子工学科 (E学科)**

近藤 直樹  
船原 一祥  
荒木 孝弥  
鈴木 隆之  
菅又 土郎  
以上5名

**量子・物質工学科 (F学科)**

飯田 亮介  
伊藤 吉弥  
小鷹 藍  
野田 啓  
萩原 彩乃  
門倉 強  
以上6名

**知能機械工学科 (M学科)**

国府田直人  
趙 成慙  
小菅 朋也  
毛木玲央和  
佐藤 圭太  
以上5名

**システム工学科 (T学科)**

原田 亮  
小宮山大地  
平原 緑  
山下 雅代  
以上4名

**人間コミュニケーション学科 (H学科)**

山崎 友子  
住久 美穂  
横山 牧  
中田 雅也  
西脇 雄高  
以上5名

学部合計 35名

**情報通信工学専攻 (C専攻)**

坂井 祐介  
東 真梨子  
大森 元気  
川崎 眸  
境野 翔太  
薫木 圭悟  
森井 康友  
田中 智大  
以上8名

**情報工学専攻 (J専攻)**

川久保秀敏  
佐藤 重幸  
高原 誠  
Pham Huu Phuong  
岡部 翔  
池畑 望  
以上6名

**電子工学専攻 (E専攻)**

小佐古 昂  
縄田 翔  
羽田 英司  
山崎 政宏  
以上4名

**量子・物質工学専攻 (F専攻)**

青木 浩  
井上 大輔  
斎藤 康弘  
榊原 寛史  
佐々木一樹  
村吉 浩明  
以上6名

**知能機械工学専攻 (M専攻)**

青木 治雄  
内田 和浩  
遠藤 泰臣  
寺田 一貴  
KHAMT NARANBAATAR  
宮本 健輔  
以上6名

**システム工学専攻 (T専攻)**

浦田勇一朗  
大橋 孝平  
大宅 太郎  
田中健太郎  
回測 純治

山本 徹  
以上6名

**人間コミュニケーション学専攻 (H専攻)**

神山 高明  
小迫 大  
齋藤 賢吾  
佐藤 未知  
吉村 理音  
以上5名

**情報メディアシステム学専攻 (MS専攻)**

丸山 央  
吉田 翼  
清水 智行  
秦 周平  
稲葉 亮  
以上5名

**社会知能情報学専攻 (SS専攻)**

宇都 雅輝  
後藤 達弥  
富澤 伸幸  
橋本 和幸  
柳澤 剣  
以上5名

**情報ネットワークシステム学専攻 (NS専攻)**

成松 宏美  
齋藤 祐典  
須藤 要英  
岡林 裕樹  
藤本 数矢  
以上5名

**情報システム基盤学専攻 (FS専攻)**

小林 昌平  
王 美蓉  
山藤 友紀  
青木 玄明  
荻山 温夫  
以上5名

大学院合計 61名

総合計 96名

目黒会賞とは  
目黒会賞は各年度の学部卒業生および大学院修士の内、成績優秀な者として、学内選考委員会によって選考され、電気通信大学長から推薦された方々に、社団法人目黒会が、差し上げるものです。



## 退任のご挨拶

### ご退任に寄せて

電気通信大学では、平成23年3月31日をもって、19名の教職員の方々がご退任の日を迎えられました。

3月14日に予定されていましたが、恒例の「御退任記念祝賀会」は、3月11日に発生した「東日本大震災」とそれに起因する「計画停電」のために中止となりました。

例年ですとここに「御退任記念祝賀会」の報告をさせて戴いておりますが、今年はこの場を借りまして皆様の長年にわたるご研究、ご活躍に敬意を表するとともに、今後も電気通信大学の発展にご貢献くださいますようお願い申し上げます。

目黒会事務局

### 平成22年度御退任者

教員	職員
松井 正之	渡邊 和明
鈴木 健二	初貝 文義
藤野 忠	富塚 正敏
岩澤 康裕	太田 信次
仁木 國雄	初貝眞理子
山田 千樫	
酒井 邦秀	
成澤 孝敏	
才木 良治	
岡野 豊	
田野中治実	
藁科 崇	
鈴木 洋一	
富永 倫彦	

## 退任のごあいさつ



大学院情報理工学研究所 教授

松井正之

退任を迎えて、これまで無事に過ごせたことに対して、皆様にお礼を申し上げます。電通大での始まりは、1983年1月からで、この3月で28年3ヵ月になります。

在任中は、200余名の卒研究生、100名近くの修士指導、10名近くの博士指導を行ってきました。そのうち、大学研究者としては5名が活躍中であり、学外の若手研究者の育成にも努力を行ってきました。

その中、河合塾の経営工学関連学科の教員アンケートでは、人気ナンバーワンになったこともあります。また、2006年度には出身者が産業界で評価されて、河合塾（経産省委託）による優れた研究室活動の調査拠点として選ばれ、1年間にわたり継続分析を受けている。

一方、本学の卒業生や目黒会周辺には、多大な恩恵を受けてきた。出身者には、個性ある優れた人材や人脈があり、地方大学出身の小生には心強い存在となって、学会活動、産学連携等の学外活動を発展させていくことができた。

これからも、自宅は調布で大学周辺にあり、大学との関わりは大切にしたいと思っています。今後とも、どうぞよろしくお願ひいたします。

## もっとアグレッシブに!



大学院情報理工学研究科 教授

鈴木健二

2005年12月から情報工学科教授として赴任して、5年4ヶ月がたちました。また、1993年から2004年まで、情報システム学研究科の客員教授として授業を担務し、毎年1～2名の学生をKDDI研究所で指導したことを含めると、本学での教師歴は16年4ヶ月です。長いようで、あっという間でした。皆様方には大変お世話様になり、感謝しております。

最近の学生のレベルと気質は、以前に比べ大きく変わってきました。学生の書くレポートは、提出することで手一杯、主張が弱く、品質がおろそかです。また、教師に挨拶し、質問し、話しかけることが少なく、また、周りの学生の動向を気にする平均指向が目立ちます。国際会議で外国の個性ある学生と接してきた私にとっては、「電通大生、もっとしっかりしろ!」と思います。

この5年、私の研究室に配属されたのは合計31名です。成績はでこぼこ、体育会系でアルコールに強い学生を歓迎しました。私は感じたことを日常的に学生達にぶつけました。周囲に人がいてもストレートに発言しました。この方法を受け入れてくれる学生も何人かでてきました。私が海外にいても電話、メールが飛び交いました。学生達は脱皮しはじめました。こんな学生達が、社会の荒波の中で益々成長することを期待しています。もっともっとアグレッシブに!

## 退職に当ってのご挨拶



大学院情報理工学研究科 教授

藤野 忠

1970年4月三菱電機㈱入社、2000年3月退社、同年4月電通大教授として迎えられ、今年3月定年退職となりました。この40余年間専らワイヤレス通信技術の研究に従事してきました。

始めの20年は衛星通信の開発に従事。中でもINTELSATから受注した“120Mbps Trellis-Coded modem”のFeasibility studyとHardware設計、及びその実証試験が大きな仕事でした。この開発は世界初のものであり、実証試験成功が世界の研究者を刺激して、Trellis-Coded Modulation技術は世界の多くの研究者によって研究されるようになりました。この成功を通して多くの国外の研究者に評価され多くの友人を得ました。

退社前の15年は、managerとして三菱電機欧州研究所の設立を行い、その最初の活動として、EU共同体の主催するACTS (Advanced Communication Technologies and Services) programに、郵政省の依頼を受けて参画。第3世代移動体通信の研究開発をPortugal Telecom, Daimler Benz, Aachen工科大学等と共同研究して成功させました。これをリスボン万博でデモして実証試験を成功させました。このプロジェクトを通して知ったことは、国際協業は弱肉強食の世界、一歩遅れれば餌食にされ、根拠ある成果を以って、一歩先の技術を完成させれば相手を餌食にできる、ことです。

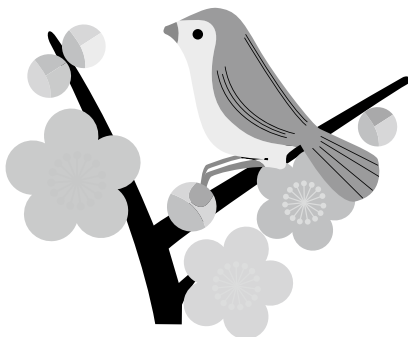
以上の2点から、仕事に対する姿勢が内向きである限り、井の中の蛙、何の成果も得られない。攻めの姿勢で国際的視野に立てば、自らのなすべきことが見え、自らの成果を世界に認識させることを覚えました。そのためには、(i)地道に、地

に足を付けた研究をすれば物事は必ず成功する。  
 (ii) 何事にもリスク回避してはならない。リスクを小さくするには、人より先に新しい技術を修得する、対象とする問題の問題点を明確にして事前に解を出すこと、と確信しました。

以上の、自分なりの原理原則を持って、2000年4月電通大に来て教育・研究を行いました。教育については、学生に対して親身に接する、褒める、叱る、客観的に学生の行動を watch する、質問させるような授業にする、ことを念頭に置きました。研究室での研究は、学生同士が議論しながら自らを高めることができる体制をとりました。

最近はMIMO信号検出の研究を行っています。毎年多くの学生を国際会議で発表させてきました。彼らは殆ど一流会社に就職し、自信を持って社会に出たことが嬉しいです。また国際会議を通じて国外の大学人や政府の方々と知合いになりました。先日の東日本巨大地震の折も、中国、越南、北米、中米等の知人から“Fujino、大丈夫か。di cultyがあれば知らせよ”との暖かいメールを戴きました。地震前日の最終講義には、はからずも多数の教え子が来てくれて感極まりない思いです。

今、我々の研究が最盛期に入ろうとしている時ではありますが、本年3月で定年退職します。楽しい電通大生活ができました。私を支えてくれた電通大の全ての方々に感謝します。



## 電通大と共に 47 年間



大学院情報理工学研究所 教授

仁木國雄

電通大前の甲州街道バイパスで靴を履いたアベベを応援したときが1年生、学園紛争で卒研発表会も卒業式も無いまま卒業。すぐに技術補佐員、翌年から技官となりおよそ20年間、主に化学実験の準備、運営、指導に携わってきました。その後助手、講師、助教授、教授と大学教員として学長以外の全ての職種を経験し、1年生の講義と実験で数え切れない程の人数の学生達と接してきました。15年位前、山手線で紳士に声をかけられ、「私は先生に化学実験を教わりましたが、ガラス器具が壊れたと言ったら、それは自然現象か？と言われたことだけ覚えています。」と言われ、とても嬉しかったことなどが思い出されます。

その間第17次南極地域観測隊で芳野超夫隊長の下に越冬し、幼いころからの夢の一つを実現することができました。その中で、-55でもスキーが違和感無く滑ることを体験し、スキーが良く滑る原理が世界中で現在も広く支持されている「摩擦融解で発生した水による潤滑摩擦」と言う説ではないことを実感しました。最近の15年間、3回の科研費を得て卒研究生、院生と共に冬の菅平宇宙電波観測所で実験を重ね、ようやく南極での実感を科学の言葉で説明できるところに到達いたしました。

最後に、平和な時代が続いたおかげで、キャリアの全てを母校での教育と研究に、そして好きなスポーツに没頭できたことを大変幸せに感じております。学生、卒業生、教職員の皆様に心より感謝いたします。学問の自由が保障された、とても居心地の良い大学でした。

## ありがとう定年



教育研究技術職員部 前任技術専門員  
才木良治

昭和47年1月にD棟の故石井正博教授の応用電子工学科電子機器学研究室に奉職し、伊藤秀一教授、故深町靖夫助手と橋本猛教授にお世話になりました。

その間、素晴らしい卒業生との出会いがあり、濁度計の開発、HPのミニコン、8080のマイコン関係の仕事や相模湖での超音波水中通信実験は今も懐かしい思い出です。その後、情報基盤センターに移り、全国のセンター職員の皆様とも出会えました。本学の技術職員部の皆様、教職員の方々、卒業生の皆様、また仕事で出会えた皆様が私の本当の財産だと感謝致しております。定年後は再雇用でしばらく本学にお世話になりますが、皆様のご多幸を心よりお祈り申し上げ、お礼の言葉とさせていただきます。

## 定年を迎えて



教育研究技術職員部技術専門員  
岡野 豊

1969年4月に電気通信大学短期大学部に入学して学生から職員と変身し、教職員の皆様の支えによって大過なく42年の月日が瞬く間に過ぎ、気が付くと既に定年となっておりました。

職場は電子計算機室で当時の私の認識では空想の世界の物体で、知識もなく見たこともない不思議な機械で、まさか40年近くも携わることにな

るとは思いもよりませんでした。

初代室長の土方克法先生の面接で、仕事の心配をする私に「計算機を扱うのは体力があれば十分。頭は帽子の台でいい」と言われ、経験を重ねる毎になるほど体力が全ての元と感じられ、全く知識のない私でも何とか今日まで過ごすことが出来ました。

ここ数十年はインターネットの広がりと高速化が著しく、計算機と切っても切り離せない環境となり今後担当される教職員の皆様のご苦勞を思うと頭が下がる思いです。

ありがとうございました。

## 一区切りの御挨拶



教育研究技術職員部技術専門職員  
藁科 崇

おりからの東日本大震災、現地の方々の御苦勞に対しお見舞い申し上げます。比較もおろかですが1969年当時併設の短期大学部に入学したころ1970年の安保改訂に向け大変な事態がありました。全共闘運動の真っ盛り。昼間は赤いヘルメット、夜は白いヘルメットの学生が学校を占拠するに至りました。機動隊導入による占拠学生の排除の時には報道の飛行機がヘリコプターのホバリング並みにふわふわと低空を飛び、あんなことができるのかと、おどろいた事が思い出されます。当時家族で山形から引っ越して数年でしたが同郷の方が院生でおられ、研究室の鈴木務先生のお世話で故武井健三先生の研究室にアルバイトで入りました。武井先生の専門は衝突振動で、チャタリングの発生しないスイッチやリレーの製作を受け持ちました。水銀無しの無公害が売りでしたがICの普及で電子回路による代替が普通となったのは残念です。その後電通大に就職し武井先生の指揮



のもと学生実験の技術指導や実験設備の開発整備をして今日に至ります。次に学生実験の責任者となられた田中清臣先生の指揮のもと計算機制御の学生実験用設備などを開発しましたが、75年当時製作した可変電源装置15台は改良を経て現在も桑田正行先生の指揮のもとPC制御の電源装置として使用できていることを嬉しく思っております。皆様には長年お世話になり3月31日に定年を迎えることができることを感謝いたします。一方仕上げ不足の仕事もありしばらく御奉公させていただくこととなりました。改めてよろしくお願ひ申し上げます。

### 誇れる母校の如く



アドミッションセンター 特任教授

富永倫彦

雑誌編集者として30年、大学教員としては僅か10年ですが、最後の2年間を電通大で過ごさせていただきました。私なりに理解した電通大の5大特色は、目黒会という同窓会組織が強固で卒業生の就職状況が抜群によい、教育プログラムが先進的で実践力のある技術者を輩出している、土木建築を除くほとんどの理工学領域を網羅している、前身はタイタニック号の事件が契機となって設立された、新宿から15分の立地環境、となります。いつしか知人、友人にまで吹聴している自分に気づく昨今です。僅か2年間でしたが、もはや誇れる母校の如き存在になってしまいました。感謝と御礼を申し上げます。

### 世の移り変わりと共に



学生課

初貝丈義

昭和44年4月から42年間、電通大で働いてきました。

当時は、学園紛争で封鎖された本館が機動隊の導入で解除され、前年の12月には東芝府中工場ボーナスを奪った「3億円事件」が国内中をにぎわした時代でした。

学内は、コンクリートの建物（全て4階建）が多かったものの、木造の建物も有り、まさに武蔵野の面影の残っている学園という雰囲気でした。初めに勤めた職場が短期大学部ということもあり、日常的に無線通信の実験音（トンツウー）が聞こえていた記憶があります。

その後、時代の要請もあり、無線通信技術者の養成から電算処理技術者の養成へと教育・研究内容もシフトさせてきました。そして現在では、その情報技術がいかなる産業でも活用され、その技術無くしては物事が始まらないという状況です。

まさに電気通信大学は時代の先端を歩んでいると思います。様々な課題は常に抱えていくのですが、今後も一歩ずつ確実に進むことでしょうか。

こんな素晴らしい環境の中で働かせていただき有難うございました。

# 第68回社員総会 第4号議案 社団法人 目黒会の「法人移行計画」について

目黒会は法人移行問題に対して過去2年以上にわたり検討を重ねてまいりましたが、この度、理事会の承認を経て、以下のような基本方針案をとりまとめ、平成23年5月開催の第68回社員総会に諮ることになりました。

- 第4号議案**
- ・社団法人 目黒会は平成24年度中に「一般社団法人」に移行することを基本方針とする
  - ・[付帯事項1] 現行「定款」を全面的に見直す
  - ・[付帯事項2] 代議員制度を採用し、社員総会の構成員を「正会員」から「代議員」に改める

この議案に関しまして会員の皆様の十分なるご理解とご賛同をいただくことが重要となりますので、以下にその概要を説明いたします。

## 背景

目黒会は、戦時中の昭和17年にその前身である「無線同窓会」が社団法人として設立を認定され、昭和30年にその名称を「社団法人 目黒会」に改称し今日に到っております。平成18年6月に「公益法人制度改革」に関する一連の法律が公布され、旧民法に基づき設立された全ての公益法人（「社団法人」、「財団法人」、その数は全国で約23,800）は平成20年12月1日から平成25年11月30日までの5年の間に、あらたに規定された「新法人」に移行することが定められました。それまでの公益法人は移行期間中一時的に「特例民法法人」となりますが、この5年の期限内に「公益社団（財団）法人」か「一般社団（財団）法人」に移行するか、移行しないで期限終了後に「解散」するかを選択しなければなりません。

## 対策の検討状況

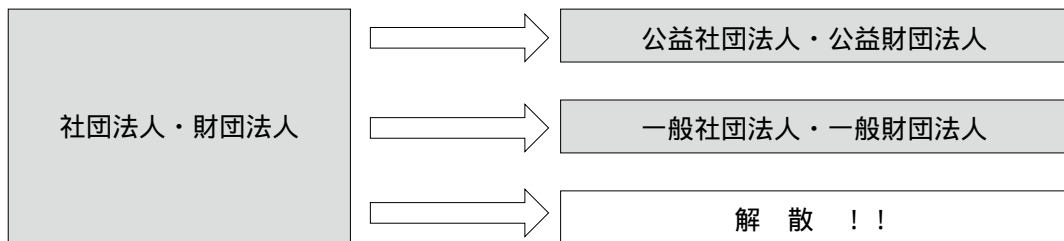
今回の制度改革で、新法人として「公益社団法人」（以下「公益」という）か「一般社団法人」（以下「一般」という）かの選択を迫られる中で、目黒会は約2年間の準備期間を経て、今年度に特別対策チーム（タスクフォース）を結成し、次のような視点から慎重に検討を行ないました。

- 「公益」「一般」でメリット、デメリットはどう違うのか
- 現在および将来の実施事業に対する制約はどうか
- 電気通信大学同窓会 目黒会としてみたとき、新公益法人としての適合性はどうか

これらについて評価ポイントを次ページの表にまとめました。

旧民法34条に基づく公益法人

5年間でいずれかの法人に移行または解散  
(平成20年12月1日～平成25年11月30日)



検討要素		公益(社団)法人(認定)	一般(社団)法人(認可)
公益法人制度改革における定義		公益目的事業を行なうことを主たる目的とし、公益認定の基準を満たす法人	左記以外の法人で、剰余金の分配はできない法人
制度上の比較	税制面での優遇性	収益事業のみ課税、その他は非課税(現行通り)	公益事業は非課税、その他は課税
		寄付優遇制度の適用あり	× 寄付優遇制度の適用なし
	一般的な社会的信用力	ブランド性がある	ブランド性は「公益」に劣る
	行政庁による監督	× 行政庁から審査、監督、指導あり	公益事業以外は報告義務なし
目黒会との適合性	公益事業支出の比率規制(目黒会の現状は基準では約3%、最大で28%)	× 公益事業支出が全体の50%を超えることが必須条件	公益事業支出比率規制はない
	政府の方針(平成8年に指導方針が改正されて、現在も有効)	× 同窓会組織は「公益」に適さないものとみなし、原則、「公益」の新規認定はない	「一般」への移行は問題なし
	他大学の同窓会組織(社団法人)の動向	- 1法人のみが「公益」への移行方針を表明	左記以外の調査全法人が「一般」への移行方針を表明

要素ごとの評価 : 優位性あり : 同等または影響無し X: 目黒会には不利な要素

(注) 公益事業とは、法令に定める23種の事業であって、不特定かつ多数の者の利益の増進に寄与するものをいう

検討の結果、社会的信用力と税制の面では「公益」に利点があるものの、他のすべてのポイントで「一般」に移行することの優位性・合理性が確認されました。また、目黒会は政府・自治体などから公的な補助や事業を受託していない現状においては、「公益法人」のブランド性は実質的に大きな意味が無く、税制面でも現状では課税による不利益は限定的と考えます。そして何より、目黒会は同窓会組織として会員サービスの実施と改善に傾注するのが本来であり、公益支出比率を50%以上にまで高める努力をすることなどは本末転倒である、と判断しました。

### 移行基本方針案

以上の観点から、目黒会は「一般社団法人」に移行するのが最も適した選択である、との結論に達し、平成22年12月開催の理事会で移行についてこの基本方針案が承認されました。この基本方針案を平成23年5月開催予定の第68回社員総会に諮り(第4号議案)、その承認が得られたなら、以下のような日程で移行計画を進めてまいります。

### 今後の移行日程

平成23年5月	第68回総会にて基本方針案を承認
平成24年5月	第69回総会にて新法人の「定款」「諸規則」(案)などを承認
同年8月頃	法人移行を行政庁に申請(約4、5ヶ月で認可を取得)
同年12月～翌年1月	新法人に移行

### [付帯事項1] 定款の見直し

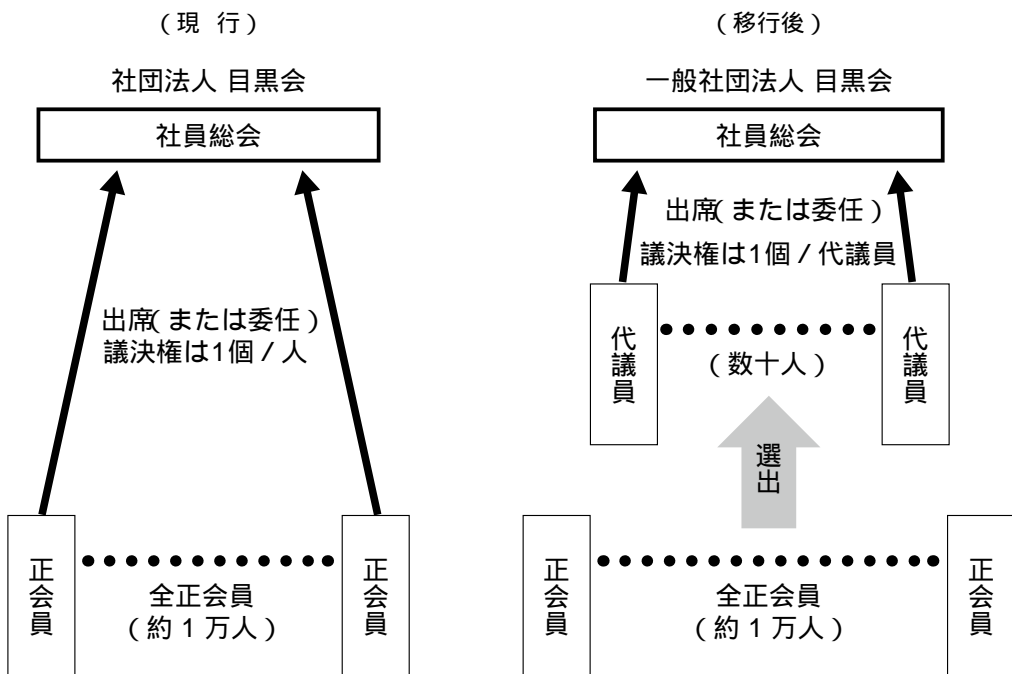
本会設立当時は電気通信、とりわけ無線通信技術の普及と発展に大きな使命感をもち、この分野で顕著な業績を果たしてきました。終戦後、無線電信講習所は電気通信大学となり、目黒会も「電気通信大学同窓会」として、卒業生、教職員、在学生を含めた会員組織でその活動を引継ぎ、さまざまな社会貢献を行い発展してきました。法人移行に際しては定款の全面的な見直しが必要となりますが、設立当時からの社会情勢が著しく変化していることも踏まえ、新法人にふさわしい内容になるよう検討を進めていきます。

[ 付帯事項 2 ] 代議員制度の採用

新法人移行を機に制度面での改革を行ない、今では多くの社団法人で採用されている「代議員制度」を採り入れる方向で検討しています。目黒会は正会員を「社員」に位置づけていますが、正会員数が1万人を超えている現在、必要な委任状を確保して「総会」を開催することが年々難しくなっています。そこで正会員に一定数の代議員を選んでいただき、代議員を法律上の「社員」として社員総会を構成し議決を行なう方式を採り入れるものです。この代議員制度の一般的概念は下図

のようになりますが、詳細と関連規則については担当の委員会を中心に現在検討を進めています。代議員制度への移行についても関連規則を（次々回）平成24年度総会に諮り、承認を得る計画で準備を進めていきます。

以上





# 第68回 目黒会定期総会開催のお知らせ

日時 平成23年5月24日 17:20～18:20

会場 電気通信大学内 創立80周年記念会館(リサーチ)3階

## 議 題

- 決議承認事項
- 第1号議案：平成22年度事業報告並びに収支計算書等の承認について
  - 第2号議案：当期収入過不足金の処分の承認について
  - 第3号議案：平成23年度事業計画並びに収支予算書の承認について
  - 第4号議案：目黒会の「法人移行に関する基本方針」案の承認について  
(次頁以降に当該議案について解説記事を掲載しました)
  - 第5号議案：新任理事(1名)の承認について
  - 第6号議案：目黒会 支部設立の承認について  
四国支部 米国支部
- その他の事項 第7号議案：その他

## 同時開催の行事のご案内

### 創立80周年記念会館(リサーチ)見学会

皆様のご寄付で建てられた会館の見学会を例年同様、総会前に下記の通り行いますので、ご希望の方はどうぞご参加下さい。

日時：平成23年5月24日 16:00～16:30

会場：創立80周年記念会館(リサーチ)1階にお集まりください。

### 学長特別講演会

梶谷 誠 電気通信大学長にお話をさせていただく予定です。

日時：平成23年5月24日 16:40～17:20

会場：電気通信大学内 創立80周年記念会館(リサーチ)3階

演題：未定

### 懇親会

総会后下記の通り懇親会を行います。

多数ご参加頂けますようお願い申し上げます。

日時：平成23年5月24日 18:30～20:00

会場：学生会館3階レストラン「ハルモニア」

会費：3,000円

#### お願い

目黒会は社団法人であり、正会員の皆様は「社団を構成する社員」となっております。正会員の皆様には総会・懇親会の出欠について、目黒会ホームページ(推奨)または同封の「総会出欠通知書用はがき」にて、ぜひともご連絡をいただけますようお願い申し上げます。



# ベトナム： ハノイに会社設立して感じた事

## 佐藤道明

1989年 経営工学科卒業  
株式会社 HanoiAdvancedLab 代表取締役  
MAIL : michiaki@hanoi.jp



2005年、株式会社 HanoiAdvancedLab (HAL) を日本・ベトナム両国に設立し、早いもので今年で7年目を迎えます。設立当初はオフショアシステム開発ビジネスからスタートし、現在はベトナム国内において携帯ゲーム提供など、インターネットを中心としたITサービスを手掛けております。

ベトナム (Hanoi) へ単身渡航し、会社を設立した当初は日本とベトナムの文化の違い、考え方の違いに戸惑い、毎日が驚きの連続でした。明日が納期というシステムがまだ完成していないのに、担当者は帰宅してしまう……。電話をして理由を問うと、「家族と夕食を一緒にとるため」と全く悪びれた様子のない回答。当時は、この違いを如何に《是正》するか？に注力をし、社内ルールの構築・マネジメントの仕組み作りをしていました。現在では、当時の悩みが嘘のようにスムーズに仕事が流れるようになっています。しかし、スムーズに流れるようになったのは、この《違いの是正》対策ではなく、1つの考え方の変化にあったと感じています。

それは、《違いの是正》ではなく《共通点》を探し、それを理解し、仕組みとして取り入れるという考え方自体の是正でした。文化・考え方には違いがあるが、そこには優劣はなく、それぞれどちらも素晴らしく、違い自体にデメリットはない。違いを知らずに一方の考え方のみを押し付け、何かを成そうとすることが問題と捉える考え方です。

そのことに気が付いてからは、「違い」ではなく「共通」に注目をし、これが今日の我々の活動

を支えてくれていると実感しています。ハノイ滞在中、「ハノイ日記」なるものを書き、両国文化の共通点や、日本にはない視点などを気がつく範囲で書きとめるようにしていました。今回は、2006年に書いた日記をご紹介します。

### 『ハノイ日記』

アパートからHALのオフィスまでは歩いて5分。

日本での電車通勤を考えると信じられないくらいの贅沢です。

朝は少し遠回りをして散歩をしながら出勤します。この散歩には、注意しないといけない場所が一か所あります。それは、途中にある大きな幹線道路です。

「道路を渡るのがそんなに問題なの？」って思われますよね？

実は、大きな道路を渡る事は、ハノイに来てもっとも最初に驚く事の1つなのです。まずは、バイクの量が半端じゃない。さらに量だけでなく、交通ルールがない。(僕らから見ると)右から来るし、左からも来る(これ逆走です……)。

信号は少ししかないし、あっても必ず守るといふよりも、ちょっとした目安に留まっています。信号が赤になっても速度を少しだけ緩め直進してきます。

では、どうやって渡るか？というと、ベトナムならではの道路の横断方法があります。

それは大量のバイクや車の流れを前に、一歩ずつ一歩ずつ進んでいくのです。



ゆっくりと、止まらず、まっすぐ渡っていく。俺は道路を渡るぞ！という気合いのもと、仁様のように目を見開きながら渡ります。

すると、バイクや車が歩行者をよけていきます。ダイビングをやる方は、こんな経験があるのではないのでしょうか？

魚の群れの中に入ると、前方から来る魚たちが自分の目の前で左右にきれいに割れていきます。まさにあれです。

自分の命を、こうも安易に他人に預けていいものか？との疑問がわかりますが・・・。さてさて本題ですが、夕暮れ時、その大きな幹線道路を二人の初老の男性が渡ろうとしていました。年齢は70歳くらいでしょうか？

お二人とも立派な白髪です。なにげなく二人の後を歩いていると、渡り始めてすぐにその二人の初老の男性は手をつなぎはじめました。そして、渡り終わるくらいに自然につないでいた手を離しました。

ベトナムでは、このようなスキンシップを良く見かけます。

4人で横一列になり腕を組みながらランチに行くOL。

肩を組みながら歩いていくスーツ姿のオジサン2人。

日本では、子どもと酔っ払いの特権みたいになっ

てしまっている人と人とのスキンシップがここハノイでは普通にあります。僕らの仕事はシステムをつくることなので、気をつけないと独りよがりになりがちです。SEは完璧を目指す傾向が

あります。それ自体は素晴らしいことですが、時折自分で範囲を設けてその部分だけの完璧を目指す方がいます。全体の最適化ではなく、自分の範囲だけを完璧にしようとしてしまいます。ある程度の役割分担は、品質や効率をあげるうえで必要です。しかし、大切なのは全体の品質。役割分担を正に回転させるために我々は色々なルールや開発方法論、プロジェクトマネジメント技法を駆使します。

ハノイには、スキンシップがあります。手をつないでいる人が転んだら、自分も転んでしまう。

でも、手をつないでいれば転びそうな友人を助けられるかも？しれない。ベトナムには、日本では失ってしまったモノがまだ残っています。

我々日本人は、失ったものと引き換えに何かを得たのかもしれませんが。ベトナムの良いものを残しながら、日本が得たものを共有していく。スキンシップの文化が残っている彼らには、他のメンバーが困っていたら自然に助ける。自然に相談をする。それができるベースがある気がしています。

ほんの少し「日本のノウハウ」をふりかけ、HALオリジナルの社風が作れる気がします。HALスタイル。ベタベタした人間関係はどちらかという嫌いだけれど、手をつないだ2人の初老の方の後ろ姿に、さらっとしたやさしい春の風を感じました。

# 最新マーケティング・トレンド

## 第5回「電子書籍の衝撃 2」

株式会社Bomb Marketing 代表取締役CEO 柳本信一

URL <http://r-research.co.jp/>  
mail [ryubon@kkd.biglobe.ne.jp](mailto:ryubon@kkd.biglobe.ne.jp)



みなさま、こんにちは。

縁あって伝統ある目黒会の会報誌である「CHOFU Network」誌に寄稿をさせていただくことになりました。今回で5回目です。

拝復 わずか半月の間に日本は全く違う国になってしまいました。死者・行方不明者で3万人以上という痛ましい大災害「東日本大震災」です。こうしている今も現地ではギリギリの生活が続いているものと推察します。改めまして被害にあわれた方々、震災被害地域に在住の方々に心よりお見舞い申し上げますと共に、全ての方々のご家族、ご友人の方々のご無事と安全、そして損害を受けた多くの町の一刻も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

それにしても「地震・雷・火事・親父」よりも怖いものがあるとは知りませんでした。もちろん「津波」です。最大の高さは30メートルもあったそうです。普通のビルで言うと10階でしょうか。まさしく想像を絶します。テレビや新聞で報道されている映像はあまりにむごい地元の様子は流していません。現地にナースとして赴かれた方の日記を見ればよくわかります。

<http://blog.goo.ne.jp/flower-wing/0#10>

「地獄絵」が見えます。そんな中で自らの命をかけて闘っている被災者の方、自衛隊、警察、消防、医療、ボランティアの方々に心からの応援と感謝の念を持ちます。あなた方の頑張りを見聞きするたびに「この国は大丈夫だ」と心に思う毎日です。本当にありがとうございます。

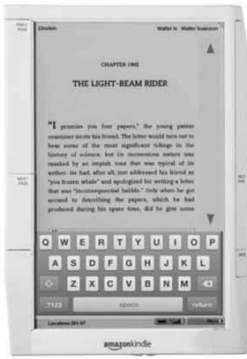
自分として何が出来るか、を考えました。残念ながら私にできることは限られます。結局、赤字を通じて募金をすることにしました。分相応の額ではありますが、これから復興への長い道と考えると最もオールマイティであり、地元の方々に使い道を考えていただくほうがよからうと考えた次第です。もう一つ決めたことがあります。それは、「これまでどおりの生活を送ろう」と言うことです。無論、電力供給がままならない現在、「節電」に努めるのは当然の義務だと考えています。しかし、あまりにも過ぎた「自粛」や「消費減退」は避けなければならない。プロ野球がナイターの実施を取りやめたのは当然でしょう。でも、試合は見に行きましょう。日本全体が「鬱々たる」ムードになることは止めませんか？それは消費を落ちこませ、何の被害も受けていない地域の経済まで低迷し、破壊してしまうからです。今は被災地のために、「将来のために取っておこうと思った資金」を消費に使いましょう。そうすることが被災地と日本全体がこれから再び立ち上がるために必要だと思うからです。

\*

さて、今回のトピックスは前回に引き続き電子書籍の未来を考察します。2010年は日本の「電子書籍元年」と呼ばれました。しかし、実体はどうだったかということ、実験的ないくつかのトライアルは始まったものの、損益を度外視したいわば実験が始まった、と位置づけられます。

一方、米国ではまさに電子書籍がブレイクしま





ンが経営破たんしました。本屋で本を買いたくても買えない人たちがいました。

### 翻って日本の市場は

日本では書籍の値段が比較的安い。従って電子書籍化をしても読者にとってのコストメリットが小さいということが言えます。私自身もiPadを通じて数冊の電子書籍を購入しましたが、それ以上は買っていません。電子書籍のみでの出版もトライアルはありましたが、決して安くはない。

した。2009年の統計をみると約300億円の市場が出来上がっています。2010年はまだ統計が出ていませんがおそらく500億円の市場になっているはず。米国ではなぜこれほどまでに急速に市場が立ち上がったのか。

端末 Kindleが普及し、800万台も売れた。

2010年一年間だけで達成しました。開発者はAmazon。累計では1000万台を突破しています。

米国では一般に本の値段が高く、20～30ドルが中心価格帯です。日本の感覚から考えると2倍に近い。すなわち電子化することでコストを下げる余地が大きかった。Amazonではそれを50%以上のオフで9.99ドルで提供しました。つまり電子書籍にすることで確実にコストダウンが可能でした。

日米の比較ですが、日本語は表意文字、英語は表音文字です。同じ意味のことを書いても英語のほうが文字数が多くなります。米国では本は重くて、嵩張るものだったのです。それがKindleではわずか500gのタブレットの中にすべてが入ってしまいます。

米国では従来の書店ではなく新興企業が業界地図を塗り替えました。Amazonであり、Googleが電子書籍市場にコストも手間も惜しみなく注ぎました。また、国土の広い米国では本屋に行くのに数十キロの道を走る、という光景が珍しくありません。事実、先日米国でナンバー2の書籍チェー

### 日本独自の商慣習

「再販価格維持制度」「委託販売制度」という世界にも稀に見るアンシャン・レジームが業界を牛耳っています。旧体制の人間にとっては電子書籍化が進むことは自分たちの利害と明確に反するのです。実はこの問題が日本の電子書籍市場のロケンを妨げています。

上記の問題の延長線上ですがAmazonのような旧体制を叩きのめす、という新興勢力に元気はありません。電子書籍を売るネット書店はできたのですが、おのおのが自分の出版物を売る場合が多く利用者にとってのメリットが非常に少ないと言えます。

一方、電子書籍向けのハードがブレイクしません。各社ともそれぞれの仕様でタブレット端末を発売していますがどれも決定的なヒットにはなっていません。iPadはその中ではダントツですが、いかにせん所有者は30万人に留まっています。iPad購入者を調べても圧倒的に多いのはノートPCの代替機と言う位置づけが多く、電子書籍がその目的としてあまり意識されていません。

以上のような理由で日本での電子書籍はまだまだ夜明け前、と言う状況です。

こういう段階で日本の出版社は電子書籍に大きく踏み出すことができません。新刊書籍を通常の紙と電子の両方で展開をしようとしてもコストがかかるばかりで、旨みがないのです。従来の既

刊書を電子化するのであれば問題は少なそうですが、実は電子書籍は作成段階で結構コストがかかります。例えばiPadで本を読むときにはタブレットを縦にすれば文字列は縦になりますし、横にすれば横書きになります。これは「リフロー」と呼ばれますが、この設定だけを考えても結構なコストがかかります。

さらにリッチコンテンツ化を試みるのはかなりの冒険になります。例えば絵をタップするとその絵が拡大されたり、サイトに繋がったり、場合によってはそこで買い物もできる。ネットに繋がった電子書籍であれば、このくらいのことはできて欲しいのですが、現状ではコストに見合いません。

米国でも、よく売れて収益を上げているのは、既刊書を単純に電子化したものが多い。テキストオンリーでなおかつ横書きだけです。これにはコストはほとんどかからないのです。

しかし様々な角度から新しいトライアルが生まれつつあるのも確かです。しおりを入れたり、マーカーを塗ることができる本が出てきました。単純に電子化と申し上げたkindleでも「ポピュラー・ハイライト」という機能があり、「 人の人が同じところにマーカーを引いています」というようなSNS的な機能が付け加えられています。

では、一体いつになったら日本の電子書籍はローンチするのでしょうか。実は厳密な意味で書籍かどうかの意見が分かれるところですが、日本の電子書籍は実に574億円の規模があります。「何だ、米国よりも多いじゃないか」と言われそうですが、このうち90%がケータイ向けの「マンガ」配信なのです。しかもその多くは「boys love」と呼ばれる、美少年同士の愛の物語。読者はほとんどが女子中高生です。確かにこれでは日本の電子書籍市場は夜明け前と言えそうです。

今後のキーになるのはやはり、Amazon Japanの動向でしょう。一体いつになったら日本語向けのkindleを発売するのか。全くわからなくなりました。これは主に震災の影響です。iPad2も販売が延期になりました。Made in Japanの部品が3割もありその調達に全くめどがつかないからです。



筆者プロフィール



柳本 信一

生まれ：1959年

学歴：筑波大学第一学群社会学類 卒

職歴：1981年(株)リクルート入社

2004年までマーケティング・リサーチ担当

2004年独立 株式会社アール・リサーチ設立

2011年3月 株式会社 Bomb Marketingへ社名変更

<http://r-research.co.jp>

E-mail: [ryubon@kkg.biglobe.ne.jp](mailto:ryubon@kkg.biglobe.ne.jp)



# 子供達が好奇心で夢中になる 科・学・の・遊・び ミニエクスプロ活動

「電通大こどもサイエンスミュージアム」  
「小学校の中に子どもたちと創る好奇心いっぱいのサイエンス工房」

竹内 幸一

S44 電子工学科卒 元ソニー takeuchiLABO@gmail.com



サンフランシスコの科学館、エクスプロラトリウムは「さわってごらん」のハンズオン実験のメッカ。30年間で700点のハンズオン実験を開発し、その実験は世界中の科学館が活用しています。

科学館の中に工場があり、そこで実験を試行錯誤しながら開発。子供達はその開発状況を見る事が出来ます。熱中科学者のおもちゃ箱です。

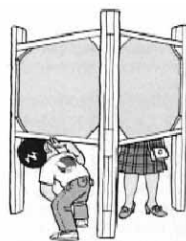
ソニーが1989年に行ったEXPLORATORIUM展は3年間で国内7箇所です100万人が入場。

子供時代時計を分解した科学少年の井深会長さんがリーダーになりました。「広告代理店を使ってはいけない」「コンパニオンを使ってはいけない」と厳命しました。みんなの努力で運営しました。ボーイスカウトが子供達を世話しました。

サンフランシスコでの展示はミシンの古い機材や、自転車の部品や色々なジャンクを使って製作したネジがむき出しの展示物。常に子供達の使い方をヒントに改良をしているので手づくりそのままです。エンジニアの想いと温もりが直接子供達に通じます。進歩し発展する科学館です。

2000年の終わり、田中康夫知事さんから長野県の科学館計画「こども未来センター」の有識者委員を養老さんと共に委嘱され、長野でのサイエンス活動が始まりました。

1989年のソニーエクスプロラトリウム展の65点1億5千万円の実験を基本に、信州大学農学部学生9人とで材料費7万円で手作りしたミニ・





エクスプロラトリウム実験 60 点を開発。2002 年長野県科学の祭典で披露。それから毎年、だんだん拡大し年に 20 箇所 3 万人から 4 万人にサービス。多い日は 1 日に 3000 人。電通大学生も協力。ステップワゴンに満載した移動サイエンスミュージアムです。電通大では毎月おもちゃの病院が開催される第 3 土曜日に子どもサイエンスミュージアムとして目黒会 80 周年記念館 2 階で開催しています。

小学校で開催すると子供達は好奇心を満開にして次のベルが鳴っても理科室を離れません。

科学館に行く子供達は 1% 以下です。小学校から科学館への見学は 4 年生か 5 年生の時、バスで出かける 1 回だけのチャンスです。理科が苦手だからと教育学部に行く先生の卵達。理科ぎらいのまま小学校の先生になっています。

子供は 5 年生までは理科が大好きです。しかし、何とかの法則を丸暗記したり、計算問題とかになってくると興味が遠ざかってしまいます。試験が無かったら理科が大好きなのに残念です。

学校の中に好奇心いっぱいミニ・エクスプロラトリウムがあって、毎日、工作が出来たり、サイエンスを楽しめたら、子供は学校に行くのが楽しみになります。1% ではなく 100 倍の子どもたちが楽しめます。

学校の空き教室に子供達が作るサイエンス

ミュージアム、子供達が作った展示物でみんなにサービスする。壊れたら直しながら改良する。幼稚園の子供達にもサービスする。100 円ショップやホームセンターの材料で手作りできます。

金沢「大野からくり記念館」故山本理事長さんに呼ばれて「こどもからくり体験棟」でミニ・エクスプロラトリウムを開催。理事長さんは 89 年ソニーのエクスプロラトリウム展を見学しサンフランシスコも訪問。日本のエクスプロラトリウムを金沢にと目指し「こども棟」を併設されました。元、数学の先生の副館長さんが自作で 2 点のエクスプロラトリウム実験を製作していました。

藤沢本町小学校の広浜教頭さん、恵比寿加計塚小の元気な吉川校長さん、新潟県松之山小、面見がよくて理科大好き富澤教頭さん。女性が活躍。やっぱり「ひと」です。

今は昔、小学校 4 年の時、神田の交通博物館で科学教室があり、割り箸を試験管で蒸し焼きにして木炭ガス、じゃがいもからデンプン作り、ローソクの実験、銅線、鉄線の電気抵抗、ブザー製作…。その帰りに御徒町の科学実験器具屋さんでフラスコやピーカーを買って、クラスの仲間に実験。高校時代、台東区の図書館を夜借りて、アマチュア無線仲間で小中学生に電子工作教室を開催。

高校 1 年の時、卒業名簿から東芝の真空管の開発者をさがして中学 1 年生 20 人を連れて真空管





工場を見学。中学1年生にはアマチュア無線の免許の講習。科学少年が居た時代でした。

今、小学生がひもを結べません。一人っ子になってお兄ちゃんの模型飛行機がありません。核家族でおじいちゃんのノゴリがありません。家の中でも学校でも実学が無くなりました。

音楽家の子供は音楽家になります。医者の子は医者になります。やはり小さい時の環境です。

小学校3年の時から大人のカメラを持っていました。300年続いた薬屋で明治時代に写真材料も扱っていましたが。戦災で焼け、薬屋は終わりましたが。祖父は工作が得意で、しかけおもちゃや、ふしぎな鍵の銭箱、本物のパチンコ台、ラジオも作っていました。孫娘にはドールハウスを作っていました。工具が一杯の祖父でした。

ソニーで初めてのビデオプロジェクターやベータムービー、ハンディカム、単眼1レンズ立体カメラなど世の中で初めての物を開発したのも、やはりそういう環境がなせる物だったと思います。井深さん盛田さんにも助けられました。ソニーが昭和34年5月こどもの日連休に三越で開催した「少年電子科学展」の面白さで後にソニーに入社しました。中学1年でした。子供達に配られたパンフ

レットに描かれていた未来の家には壁一面の大型立体テレビがありました。入社2年目でビデオプロジェクターを開発して立体も開発しました。

子供達の体験を増やす電通大工作教室は70代OBによる活動です。発明協会からの依頼で仲立ちとなって電通大の少年少女発明クラブも生まれました。40人募集に300人も応募がある大人気です。

第3土曜のこどもサイエンスミュージアムは目黒会元会長の前田さんの計らいで始まりました。参加人数の制限はありませんので3月も発明クラブの抽選に訪れた親子300組も楽しんで行きました。調布祭でも大勢に好評。

東工大のOBも70名が各地の児童館で科学教室を開いています。目黒会の皆様にはこの簡単な移動ミュージアム開催の実験やノウハウも伝授します。今、電通大では半田ごとの経験がないまま卒業する時代です。その昔のOBが直接子供達に楽しさを示しましょう。次の世代である子供達へのヴォランティア活動をお奨めします。きっと「ひと」との出会いや仲間が出来て生きている実感が増します。機材もお貸しします

# UEC・NOW

## 電気通信大学はいま

電気通信大学や目黒会の様々な取り組みの中から、特に産業や社会との関係性の高いニュースをピックアップ。新たな価値創造に向けて力強い歩み続ける電気通信大学の「今」をレポートします。

### CONTENTS

平成22年度 就職委員会活動報告  
サテライト・ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー (SVBL)

## UEC・NOW ①

# 平成22年度 就職委員会活動報告

就職委員会委員長 山森信生

### 1. 日常活動

就職委員会の最も大きな活動は、就職を希望する新卒学生に対する日常の指導ですが、最近の景気低迷による企業からの求人減少により、平成22年度の新卒の就職は苦戦を強いられ、3月末でも未だ2011/03卒了の未内定学生の就職相談が続いています。加えて就職に対する「危機感」から2012/03卒了生の相談急増（既に180名超）で、就職支援担当者は極めて忙しい状況にあります。昨年暮あたりから「求人」も僅かながら増える方向かと思われましたが、「東日本大震災」により景気や雇用に悪影響が出ることが懸念され、2012/03卒了生の就職も決して楽観できないと考えています。

### 2. 「夏季就職相談会」

平成22年7月7日 13:00 ~ 17:00  
大学会館多目的ホール  
参加企業数 24社 訪問学生数 70名



平成22年1月21/22日に開催した「企業別就職相談会」(参加企業数90社)の際のアンケートに「初夏あたりに就職相談会を企画して欲しい」とのご要望が多数あり、初めて「夏季就職相談会」

を開催しました。「電通大生を採用したい」との優良中堅企業中心のこのイベントでは、この時期から本格的に採用を推進する企業と、これまでに内定を受けられなかった学生との間に真剣な出会いの場を提供することが出来、その後の内定に大きく寄与できました。

### 3. 「企業研究展示会」

平成22年10月23日 13:00 ~ 17:00  
西地区体育館  
出展企業41社（昨年45社） 参加学生317名



各企業ブースごとに、製品・パネル・パソコン・ディスプレイなどを用いて企業をPRし、参加した学生と面談を行いました。（2012/03 卒了生 + 2011/03 卒了未内定学生 対象）

### 4. 「企業研究 2011」誌 発行

就職を目指す学生の「就職企業検索」の重要なツールとなる「企業研究 2011」誌2500部を平成22年12月6日発行し、就職を希望する学生に配布し、賛助会員保護者および掲載企業102社（昨年は104社）へ郵送しました。



### 5. 「分野別就職相談会」

平成22年7月16日 17:45 ~ 19:00  
「OBに聴く就活！」（於 B202）  
平成22年12月10日 18:00 ~ 20:00  
「OBに聴く分野別就職相談会」（於 B101、B102）



この催しは、本年度就職活動をスタートする学生に対し、様々な分野で活躍する本学OB達が、業界分野の選択から就活の進め方まで実体験に基づいたアドバイスを行うものです。今年は開催方式を大幅変更した前年度に倣い、前期・後期の2回に分けて開催しました。前期は夏休み前の7月に、「OBに聴く就活！」と称してOB 5名とフリーアナウンサーにご来場いただき、パネルディスカッション形式で開催、これから就活を考える多くの学生を前に「働くことの意味」から「目標設定に向けて考えるべきこと」までを熱い討論を通じてアドバイスしました。

今回の討論には、学長・目黒会長にも客席からご参加戴き、大変充実したものとなりました。

後期に行われた「OBに聴く分野別就職相談会」は、計15名のOB / OGが参加し約170名の学生に対応しました。相談は40ずつの2回に分けて行い、学生は4分野に自由に参加できるようにしましたが、熱心な学生が多く時間内に終了せず更に30分延長して相談会を行いました。



## 6. マスコミセミナー

平成22年10月29日 16:15 ~ 17:45  
リサーチ3階

今年で3年連続の開催となるが、今年は講師の都合がつかず1日の開催となりました。

毎年、熱心なマスコミ志望の学生がおりマスコミ出身の講師も熱心に指導をしていますのでその評判を聞いて、27名の学生が参加し、マスコミ関係に内定した2名の先輩の話もありとてもこの時間では終わらなかったもので、続きは12月10日の「OBに聴く分野別就職相談会」へ続く形になりました。

## 7. 「企業別就職相談会」

平成23年1月20日・21日 13:00 ~ 17:00  
大学会館4F及び 創立80周年記念会館3F



今年の「企業別就職相談会」への参加企業は92社（去年は90社）で、ここでも景気低迷による企業の新卒採用意欲の低下が顕著に見られました。一方、学生の参加数が過去最高の延べ851名であったことは、就職戦線の厳しさを象徴しています。

この「相談会」「交流会」に応援していただいた先生方、目黒会理事・就職委員の方々にお礼を申し上げます。

なお平成23年度の活動イベントについては、文部科学省・業界団体の採用活動開始時期を遅らせる動向、大学授業や就職支援事業との整合・調整など考慮した上で、形態の変更も含み検討中ですが、基本的には夏季就職相談会・企業研究展示会・企業研究誌・分野別就職相談会・企業別就職相談会に加え、「IT関係就職相談会」（5月）などを計画中です。



## 展示会・研究誌・相談会 年次推移

	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
企業研究展示会	2006/10/28	2007/10/27	2008/10/25	2009/10/24	2010/10/23	2011/12/3
参加企業数	72	79	80	45	41	
参加学生数	345	200	355	309	317	
企業研究誌	2006/12/5	2007/12/4	2008/12/5	2009/12/6	2010/12/6	2011/12/6
掲載企業数	138	154	150	104	102	
企業別就職相談会	2007/1/13	2008/1/11・12	2009/1/13・14	2010/1/21・22	2011/1/20・21	2012/1/26・27
参加企業数	121	146	138	90	92	
参加学生数	413	407	554	593	851	
夏季就職相談会					2010/7/7	2011/7/13
参加企業数					24	
参加学生数					70	
IT関係就職相談会						2011/5/18

UEC·NOW ②

## サテライト・ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー(SVBL)

産学官連携センターベンチャー支援部門長 研究設備センター先端研究設備部門長 野崎眞次

国立大学にVBL(ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー)やSVBLが設置された当初の目的は、大学院生を中心とした若手研究者の創造力、そしてベンチャーマインドを育成し、大学での研究成果をシーズとした新規事業の立ち上げを支援することでした。電気通信大学のサテライト・ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー(SVBL)は、平成7年11月設立されました。SVBL研究棟は、電子・光デバイス、ナノテクノロジー、ロボットなどに関する研究開発が行えるよう、クリーンルームをはじめとする最先端の材料作製、加工、評価装置を有しており、その施設を活用して本学発ベンチャー企業がいくつか誕生しております。また、SVBLは、産学官連携DAYに開催されるアイデアコンテスト、学部生へのベンチャービジネス概論、院生へのベンチャービジネス特論は、学生のベンチャーマインドを育成してまいりました。平成16年度に国立大学が法人化され、その後SVBLの組織は何度か改編されました。平成21年度の地域・産学官連携推進機構の組織改編によりSVBLは産学官連携センターのベンチャー支援部門と研究設備センターの先端研究設備部門に分割されましたが、両部門は引き続きベンチャーの教育、創出に貢献しています。次に、SVBLの新しい組織である先端研究設備部門、ベンチャー支援部門について簡単にご説明いたします。

### 先端研究設備部門

先端研究設備部門は、SVBL研究棟の設備を主とした材料・デバイス室、機械・ロボット室、光・バイオ室の3つの室から構成されており、共同利用設備として学内外の教員、研究員、学生の幅広い利用を奨励しています。先端研究設備部門は、これまでの“設備(物)の集約”から、“知識(知)

の集約”、“技術(技)の集約”に力を入れていき、研究での共通点を見出し、積極的にグループ内およびグループ横断型の研究プロジェクトを設定していく努力を学生、教員を含めて行っていき、その研究成果を積極的に学外へ公表していきます。また、SVBLでの研究成果をもとに創出されたベンチャー企業は今なお、研究開発にSVBLの設備を活用しています。

### ベンチャー支援部門

ベンチャービジネスの萌芽となる独創的な研究開発の推進、ベンチャー精神に富んだ人材の育成、大学発ベンチャーの創出支援・育成、キャリア教育を推進しています。産学官連携DAYでは、学内外からのベンチャー創出につながるアイデアコンテストを主催し、優秀なアイデアには、実用化に向けての研究助成を行っております。また、学内の教員や研究員の研究成果を基盤とした優秀な事業計画にも研究助成を行い、ベンチャー企業の創出・育成、知的財産・技術の譲渡、売却による企業での活用を奨励しています。講義では、学部生を対象としたベンチャービジネス概論、大学院生を対象としてベンチャービジネス特論を開講しています。

このように、設立当初から大きく変遷したSVBLですが、ベンチャー創出、産学官連携に引き続き貢献していきたいと思っておりますので、施設の利用を含めて皆さんに興味を持っていただけたらと思いますので、今後ともよろしくお願ひします。詳細は、ホームページ<http://www.svbl.uec.ac.jp/index.html>をご覧ください。



# 電気通信大学藤沢分校物語…

## 誕生から廃校まで

近藤 俊雄 (33B)



はじめに

私は、1958年(昭33)に電気通信大学を卒業して東京の会社に職を得た。1964年(昭39)に経堂から藤沢市辻堂に越して、1977年(昭52)鵜沼海岸に移り、爾来46年余になる。1986年(昭61)目黒会の理事に指名され、1992年(平4)から1997年(平9)まで廣神三木雄会長(33T)の下で専務理事をつとめた。(目黒会報11-2:私の交友録、15-3:私の目黒会の思い出)その後、現在まで広報委員として目黒会に関わっている。会社も定年となり、会社社会から離れると共に、地域でのサークル活動が深まり、仲間も沢山出来て、この地にやっと根をおろした気がしている。2010年(平22)5月、近くにある鵜沼郷土資料

展示室で「なつかしき学び舎その6」として「湘洋中学校」の資料が展示された。藤沢分教場の写真には「昭和19年建設の旧電気通信講習所の木造2階建ての建物と敷地。戦後、電気通信大学となる。ここに昭和31年4月1日、藤沢市立湘洋中学校が開校した。」と説明文が添えられ、学校の写真数葉と資料が展示されていた。湘洋中学校を卒業した娘に「お父さんは湘洋中学に泊まった事があった」と言った所、「ええ!どうしてなの?」「かくかくしかじか」といっとき会話がはずんだ。

大学2年の1955年(昭30)夏同級生数人でこの鵜沼の学校寮に泊まり、麻雀、海水浴を楽しんだ。その後、この土地に住んだ私は、大学の浜見寮に気付き、この辺に学校寮があったなとボヤーと思っていたのであるが、それ以上を考えた事は無く、深く追求する事は無かった。鵜沼郷土資料展示室で写真・資料を見て初めてうかつにも「エッ、そうだったのだ」と気付いたのである。私の知った藤沢の殆どの人達はこの地に電気通信大学が存在した事も浜見寮があるのも知らない。卒業生は寮があることは知っていても、湘洋中学校が、電気通信大学の跡地にできたと知っている人は多くないだろう。この私自身も詳しいことは知らない。そこでこの機会に、目黒会、大学、藤沢市、先輩や関係者達に残る資料をたどり、証言などを求め、藤沢分校にスポットライトを当てた、「藤沢分校の歴史」を甦らせたいと思ったのである。

電気通信大学は1918年(大7)12月7日社団法人電信協会管理無線電信講習所としてこの声をあげ、その後校名が3度変更された。即ち1942年(昭17)逓信省所管官立無線電信講習所、1945年(昭20)逓信省所管中央無線電信講習所、1949年(昭24)文部省所管電気通信大学である。藤沢分校の歴史を紐解くには電信協会管理無線電信講習所の前身である電信協会から語られねばな



② 1957(昭和32)年2月、米軍工作部隊の好意によりブルドーザーで運動場が敷設されたが、それでも運動場は砂浜のようだった。生徒達は砂浜を踏みよると、海水の散布を思い付き、海苔からバケツリレーで校園に海水を散布した。さて、その結果は…?



① 1944(昭和19)年建設の旧電気通信講習所の木造2階建ての建物と敷地。戦後「電気通信大学」となる。ここに昭和31年4月1日、藤沢市立湘洋中学校が開校した。校長以下、事務・指導を含め職員は11名、生徒数は4年級214名、1回生の入学式は旧の陸大の運動場で、卒業式は旧鵜沼公民館のホールで行なわれた。



会期: 2010年2月16日(火)→5月15日(土) 10時→17時  
月曜休館 但し5月3日(月)は開館  
会場: 鵜沼郷土資料展示室 鵜沼市民センター内 0466-33-2001  
主催: 鵜沼郷土資料展示室運営委員会

らない。そこで本稿では通信省所管官立無線電信講習所の成立までを、主に電気通信大学60年史(以下60年史という)を参考に、特に校名変更時の背景の流れを重点に抜粋、要約し、紹介する。

## 1 電信協会

### 1.1 電信協会の成立

1879年(明12)1月「万国電信条約」に加盟し、同年4月ロンドン第2回万国電信会議にも参列したにも拘わらず、依然として不公平な取り扱いを受けていた。関係当局は勿論、関係者は通信の技術、行政に関する強力な研究、調査の機関を必要とする機運が高まっていた。若宮正音電務局長(後、電信協会会長)は電務局電気試験所浅野応輔博士(1903年、水銀検波器の発明)の進言を受け、電気通信事業に関する「学術技芸ヲ講究スルコト、法理ヲ講究スルコト、事業ノ拡張整理ノ方法ヲ講究スルコト」を目的として1893年(明26)電信協会を組織した。入会者は790名であった。マルコーニは1895年(明28)電波式の無線電信送受信に成功した。

電信協会は当時としては電気通信関係全般にわたる研究、事業の唯一の機関であったといえる。特に1904年(明37)の日露戦争における作戦、戦略、戦術、後方支援等のための電気通信が日本海海戦に象徴されるような驚異的威力を発揮した。その陰には本会及び会員のたゆまぬ努力と熱意が効果を上げていたことはいうまでもないことである。

### 1.2 無線電信の実用化

1908年(明41)ベルリンで締結した万国無線電信条約が公布され無線電信による公衆無線電報取扱が開始された。この条約は無線電信機器の機能についての考慮と無線通信従事者の技能についての要求が含まれていた。無線通信者の養成が必要になってきたのである。唯一の養成機関の通信省通信官吏練習所(後の通信官吏練習所、通称官練)で養成することになり、同年卒業生25名を海岸局、無線電信局に勤務させた。以後大正末期まで臨時養成を行ってきた。1912年(大元)タイタニック号が沈没した。

1915年(大4)「海上人命安全条約」が発効し、搭載人員50名以上の外国航路は全て無線電信設備が必要になり、同年新たに無線電信法を制定しこれに伴う私設無線電信規則、通信従事者資格検定期規則も施行された。無線電信局は船主が施設する純然たる船舶の救難、航行の安全、船舶の事業用の設備となった。1914年(大3)に勃発した第一次世界大戦の影響で危険海域を航行する船舶は義務に関係なく、無線電信を必要としていた時代で、船主は敷設を急ぎ、メーカーは無線電信機器製造に追われていた。私設無線電信は主に船舶の無線電信であったが、官練は専門の官吏を教育する機関であるから、私設無線局に配置するわけにはいかないし民間人を養成することも出来ない。然し、通信従事者がいなければ航海出来ないで、通信省は臨機の措置として1916年(大5)官練無線科卒業者を私設無線局に配置、そしてその後の私設無線通信従事者の養成は無線機製造会社に任せたとである。しかし、船舶会社の通信従事者の獲得には相当の色々な苦労があった。

### 1.3 帝国無線電信講習会の開設

そのような背景の中で通信省の方針、海運界各方面の要望に応じて、安中電機製作所(現安立電気)が1916年(大5)港区の自社工場内に「帝国無線電信講習会」を開設し、従事者の養成にあたり300余名の検定合格者を出し、従事者払底の危機を救った。無線電信機及び従事者の大量需要の時代を迎え、1917年(大6)協会に新たな無線電信講習所の建設経営という問題が持ち上がったのである。

## 2 電信協会管理無線電信講習所

### 2.1 民間養成所の継承決意

1917年(大6)12月、電信協会は帝国無線電信講習会を継承経営することに決定した。その理由は通信省の勤めと、青山祿郎安中電機製作所社長の「一民間製造業者が、無線通信士養成などの公共的性格の事業を兼営すべきでない」とする判断に基づいて、同社が経営する帝国無線電信講習会を電信協会に譲渡したいとの申し出があったことによるが、海運業者からも通信省に対して無線

従事者養成機関を強く要請した等の緊迫した事情によるものでもあった。

## 2.2 海運会社から予定を超える寄付金

1918(大7)年7月、若宮会長は関係有力者を帝国ホテルに集めて、「電信協会において国家のための無線学校を創設する計画」を説述し、予算案を提示して協賛を希望した。定款に「電気通信技術員ノ養成ヲ為スコト」が加えられ、以後の協会の主体をなすものとなった。当時一般産業は好景気で、殊に海運界の活況はすばらしく、日章旗は世界各国にひるがえった。諸外国では船舶の無線電信施設を義務付ける法規を採用する傾向が著しくなってきた。従って無線電信設備をする船舶が激増し、また無線通信従事者の需要も急増し、その速成が海運業者方面から熱望されるような状況であったので、寄付金は予想以上の多額に達した。寄付者は日本郵船(株)以下37社、寄付金総額は46万1千円であった。

## 2.3 社団法人電信協会管理無線電信講習所の開設

1918年(大7)12月7日、社団法人電信協会管理無線電信講習所が麻布区飯倉町に開設された(電気通信大学の歴史が始まった)。1919(大8)4月同町の幼稚園の階上を仮教場として31名が入学した。7月には東京府豊多摩郡渋谷町(安中電機製作所)に講習所支所を設置し、短期講習科の授業も開始した。1920年(大9)12月、下目黒村に土地(3,775坪)、総建坪(約262坪)、建物延坪数(約451坪)の新校舎が落成した。土地の買収価格約98,135円、工費119,800円であった。爾來10数年間、私設無線電信施設への無線通信士の安定供給は、無線電信講習所通称「目黒無線」の一手にゆだねられてきた。

## 2.4 私立無線学校の濫立

1931年(昭6)満州事変後各方面で無線通信士を多数必要とする情勢となったにも拘わらず、日本唯一の電信協会管理無線電信講習所の通信士養成の拡充も思うように伸びず、更に急激な通信士需要(供給は数分の一)に直面し、遂に各所に私立の無線学校が設立されるに至った。昭和10年までに設立された私立無線学校は5校であった

がその後19校に達した。19校の内、各種学校として府県知事の認可を受けたものは10校であるが、認可はしたものの適切な指導監督は行われなかった。私立無線学校はごく一部を除きその経営方針は営利主義で私立無線学校の評判は地に墮ちた。国家試験による所定の資格を取得できる人はその1%にも達しない状況であった。

然し、通信有技者の需給逼迫の時局柄、通信術だけで資格を必要としない大陸軍関係の需要が急激だったため、卒業者の約半数が無資格のまま通信に従事することになり、この間太平洋戦争に突入り、次第に計画的教育、配員の必要に迫られるのである。

## 3 官立無線電信講習所(逓信省所管)

### 3.1 官立無線電信講習所設立の要請、国家的事業に

無線通信士の需要は1937年(昭12)日支事変の進展とともに、益々増大の傾向をたどり、質的方面においても飛躍的向上を期する必要が痛感されるようになった。このような情勢下において国家助成というよりも、むしろ国立の無線電信学校を設立して通信士の養成を図るべきだとの要請が官、民各方面から起こり始めた。1941年(昭16)4月船舶無線通信士養成に関する逓信省官船局長からの諮問事項に対し同年6月船舶無線懇談会専門委員会は無線通信士養成制度改正の件として船舶無線通信士をいわゆる無線従事者としてのみ律するは当を得たものに非ず、むしろ他の乗組員同様船舶職員としての資格を与えることは船内体制上にも肝要な方策であるとして、無線通信士の養成制度及び関連事項につき適当なる改正を加えることの詳細な意見具申がされた。官側の原案は、官立無線電信講習所設立の必要性、無線通信士の検定試験制度と養成施設などについて述べ、無線通信士の需給を図る応急策として本邦唯一の国家検定校である電信協会管理無線電信講習所を官立に移管せしめ、その施設の大拡張を実施し養成人員を倍加することが必要であるとした。数次に亘り審議を重ねた結果、官民合同の熱望は受け入れられ、逓信省所管官立無線電信講習所を設立することに意見の一致をみるに至った。

### 3.2 逓信省所管の理由

官立無線電信講習所は逓信省逓信部内の従業員を養成する逓信講習所や逓信官吏練習所などと異なり、卒業生はすべて一般の民間企業の従事者として就職する点では、医科、工科系の一般専門学校と同一視し得るものである。従って本来は文部省所管となるのが本筋であるが、本講習所において養成する無線通信士は、その取り扱う業務面につき逓信省が全面的に指導、監督を実施する必要があった。これと関連して通信士資格の付与や無線局に対する選任事務についても一貫統制を行っており、又船舶並びに航空機の無線電信はその殆どが公衆通信に供用されている関係もあって逓信省の所管とすることが望ましかった。更にまた無線通信施設の増加、並びに船舶・航空機などの建造計画に合わせて通信士の養成計画を立てる必要もあった。これらのことを考え合わせる時、諸般の事情（教員、教育施設、実習現物等）にかんがみ逓信省において直接その経営に当るのが妥当であると認められ、同省の管轄下におかれることが決定したのである。（60年史）

### 3.3 官立無線電信講習所の成立(第79帝国議会)

1941年（昭16）10月18日に成立した東条内閣は、対米開戦のための内閣であり、遂に12月8日未明真珠湾の急襲、マレー半島の奇襲攻撃を決定したのであった。15日には香港のイギリス軍が降伏し、日本軍の快進撃で沸き立っている時、第79帝国議会（12月26日～3月26日）が開かれた。この議会は戦争遂行に関わる法案と巨大な臨時軍事費を議決することであった。

議会出席者には戦後、総理大臣に就任した岸信介（商工大臣）、池田勇人（大蔵省書記官）、佐藤栄作（鉄道省監督局長）、大平正芳（興亜院調査会）等の名前が見える。（帝国議会会議録データベースシステム）

昭和17年度予算案は88億3,700万円で、追加予算を加えた前年度予算に比べると1億7,900万円の増加であったが、臨時軍事費の方は180億円という巨額の予算となっていた。それは前通常議会に提出された58億8,000万円の3倍を超えるし、またこの経費が開設された昭和12年9月以来成立した予算の合計額が289億3,500万円

と比べてもその急増ぶりをうかがう事が出来る。この議会では管理通貨制度を恒久化し、強化するための日本銀行法の改正、直接税中心の増税案（所得税、法人税、相続税）など、間接税についても税の新設（電気瓦斯、広告、馬券など）値上げ（国鉄運賃・郵便料金など）また戦後にまで受け継がれて食料統制の基本となった食料管理法の制定がされた。国民負担が一挙に増大したのである。（古屋哲夫「日本議会史録」3）

1942年（昭17）1月31日、2月2日に開催された予算委員第六分科会議に逓信省大臣寺島健、電務局長中村純一、工務局長松前重義等が出席、議会で予算が議決され、4月の官立無線電信講習所の成立が確定した。

然し、当初大蔵省に提出された予算額は2百数十万円であったが、それが復活要求のつど、減額され、最終的には120万円程度に減ったのであるが、復活予算として認められたのは更にその半額の63万円余であった。これでは校舎、設備の拡充はほとんどできない額であったが、それでもまず橋頭堡を獲得した喜びは格別であった。尚、電信協会の無線電信講習所の施設一切は国家に寄付された。

### 3.4 藤沢分教場の計画

成立予算の63万円は無線電信講習所の従来通りの運営費だけでいっぱいとなるので、校舎の新設等は、藤沢市当局を動かして同市鵜沼海岸に建造して、これを貸与させることにした。その所要資金約260万円（当時の藤沢市の年間予算総額は80万円）は藤沢市の市債を発行することとして、内務省に対する交渉など一切は逓信省において斡旋することとなった。この260万円で、土地約10,000坪の他、校舎、寄宿舎、講堂、武徳殿など約2,000坪の建築を行う予定であった。同年4月1日官立無線電信講習所初代所長として中村純一電務局長が兼務で任命された。（60年史）尚、80年史には官立（無線）講習所業務開始（中村所長事務取扱）とある。（以下次号）

（注）本稿で引用された史料、資料は最終稿にまとめて記載します。



# COLLINSと 共に生きた 我が人生 - 穴

## ボーイング747 - 400の バラエティー

大久保忠昭 (昭和 22 年 技専)

e-mail: tad-okubo@mua.biglobe.ne.jp

2011年も春たけなわですが、皆様お元気で御活躍のことと思います。小生も83才になり、大分ボケてきたような気がします。しかし、幸いなことに、老人健診でも異常なしと言うことで、よし、今年も頑張ろうと、毎日1万歩の散歩を続けております。

振り返ってみると、2010年の航空業界は、1月の日本航空会社更生法適用申請から始まって色々な問題が発生して大変な年でした。2011年こそ、航空業界での明るいニュースが有ると楽しみにしておりますが、なかなか、そうは行かないようです。毎日色々なニュースが飛び込んできますが、今回は、本題に入る前に、今年1月だけの航空界での出来事の主なものを思い出してみることになりました。ご覧になるとお分かりになると思いますが、1月の1カ月だけでも航空界で如何に多くの出来事があったか一寸驚きです。

- 1月1日 シベリアの空港で、モスクワ行きの旅客機が離陸滑走中に、エンジンから出火。4人が死亡、少なくとも43人が負傷。
- 1月1日 スカイマーク航空が、2014年から国際定期便に進出。ビジネス席を日本航空や全日空の正規運賃の半額程度で提供。
- 1月2日 天草エアラインのボンバルディア機の尾翼に穴。落雷か？
- 1月2日 仙台空港で、2人乗りの小型プロペラ

機が胴体着陸。

- 1月3日 2人乗りの小型機が、熊本空港離陸後数分で、レーダーから消えて行方不明。その後、同県の山に墜落したことが確認された。
- 1月3日 ユナイテッド航空のパイロットが、コンソールにコーヒーをこぼし、通信機器が誤作動を起こして、トロント空港に緊急着陸。
- 1月4日 政府は、日本版GPSを構築するため、準天頂衛星 みちびき の同型機と静止衛星を、2014年から2年程度の間集中的に6機～7機打ち上げる方針を固めた。
- 1月4日 羽田空港に着陸した全日空機767-300の機体後部が滑走路に接触し、中心線灯を破壊した。
- 1月5日 アイベックスエアラインズのボンバルディア機が、水平尾翼の不具合で伊丹空港に引き返した。
- 1月6日 ボーイングの2010年の民間機デリバリーは、462機。2009年より19機減少。
- 1月6日 全日空の年末年始の利用状況は、日本航空に比べて、国内線が順調。日本航空は、国内線・国際線共に減少。
- 1月7日 防衛省がFX選定チームを発足：2012年度の予算化を目指す。
- 1月7日 全日空が国際線定期便就航25周年記念フライトの3月実施を発表。
- 1月7日 全日空が12年5カ月ぶりに、成田 ジャ

カルタ線を再開。

- 1月8日 日本エアコピューター機が離陸直後、車輪出し入れのレバーが折れた。
- 1月8日 日本航空の成田発千歳行き機体で、計器の異常発生。
- 1月9日 イラン航空の727がイラン北西部で墜落事故。77人死亡。
- 1月11日 全日空が2月27日からのマニラ線運航を発表。
- 1月16日 日本航空が 鶴丸 を4月に復活する方針を固めた。
- 1月17日 エアバスの2010年の航空機納入は過去最高の510機。
- 1月18日 ボーイング787の納入が、また遅延。当初予定よりも約3年遅れ。
- 1月19日 日本航空のパイロット、客室乗務員146人が解雇無効を求めて提訴。
- 1月20日 成田空港のA滑走路大補修工事開始。
- 1月24日 ロシアのドモジエド空港で、爆弾テロ事件発生。
- 1月26日 米国の調査会社の発表によると、日本航空の定時到着率は2年連続世界一で2位は全日空。
- 1月27日 日本航空は2012年度も2年連続で全職種で採用ゼロ。
- 1月28日 日本航空が777-300型機の1機が脱出スライドが作動しない状態で3年運航していたと発表した。
- 1月30日 ホンダは、ホンダジェットについて2012年後半から、年間最大100機程度生産を行う方針を固めた。

上記は、1月の出来事のほんの一部ですが、あまりにも多くて圧倒されます。

747-400ジャンボ機のリタイヤが始まっており、特に日本航空では、2月にホノルル発成田行きの075便が国際線のラストフライトになりました。1990年に日本航空の導入でデビューしてから約20年にわたって、国内外の空で活躍してきた747-400がどんどん姿を消して行くの

は淋しい限りです。今年に入って、嬉しいニュースの一つは、日本航空のロゴマークに 鶴丸 が復活したことです。2002年に旧日本エアシステムとの経営統合で新マークを策定したため、鶴丸 が姿を消しましたが、復活を求める利用客の声が大きかったとのことです。

さて、ここで気を取り直して、前号に続いて747-400の派生型というか、そのバラエティーの資料を手に入れましたのでお知らせしたいと思います。これらの派生型に搭載されたコリンズの電子機器は、当初の747-400に搭載されたものと殆ど変わっておりませんが、特に変更されたものについてはその都度お知らせしたいと思います。

#### 747 - 400M

貨客混機で、747-400コンビと呼ばれており、胴体の後部に貨物用のドアがあって、1989年6月に初飛行しました。ローンチカスタマーはKLMオランダ航空でした。

#### 747 - 400D

初飛行は1991年3月で、此の型の機体は、日本航空と全日空だけが発注している、日本の国内線専用の仕様になっております。この機体は、短距離飛行、多頻度の離着陸の運航を行うために、胴体や床面を強化しており、座席の間隔を狭くしたり、ギャレーを狭くして座席数を増やしています。主翼先端のウイングレットも主翼の全幅を短くする為にはずされています。この機体は、1995年末までに日本航空用に8機、全日空用に11機が製造されましたが、後に-400から



747-400D : 全日空



- 400Dに改造された2機が増えて21機になりました。日本航空が運航している - 400Dの座席数は、クラスJが80席で一般席が466席の合計546席です。全日空の - 400Dは、プレミアムクラス23席、普通席542席の合計565席ですが、2002年に2機の全席をエコノミークラスに改装して、594席で2カ月間だけ運航したことがありました。日本航空が運航していた747 - 400Dは2011年1月に退役しておりますが、最後の定期便が1月31日札幌 東京間で運航され、2月19日と20日に退役ツアーが行われました。全日空の - 400Dは2015年度までに、全機退役する予定とのことです。

#### 747 - 400F

この機体は747 - 400の貨物型で、機体の重量を下げるためと、貨物室の容積を大きくするために747 - 200と同じように、アッパーデッキが短くなっています。日本の貨物航空会社では、747 - 200を貨物機に改造した747 - 200Fを運航していましたが、機体の老朽化や長距離路線が増えたことなどから、順次747 - 400Fを導入しています。日本航空では、燃費を極限まで下げるため、機体の塗装を削って機体の重量を下げています。



747-400F : 日本航空



747-400F : 日本貨物航空



747-200F : 日本航空

#### 747 - 400ER

この機体は、747 - 400の航続距離延長型で、初飛行は2002年1月に行われています。外観上は - 400と殆ど変わっていませんが、最大離陸重量が35,000ポンド引き上げられて910,000ポンドになり、操縦席のコンソールには、新型のLCDパネルが採用されました。又、胴体や主翼も強化され、更に、エンジンの出力強化、タイヤも従来よりも大きくなっています。生産機数はカナダ航空の6機です。

#### 747 - 400ERF

この機体は、747 - 400ERを元に、2001年のエールフランスの発注によって開発された貨物機です。外観は - 400Fと同じですが、コックピットの一部のアナログ部分がデジタルになっています。

#### 軍用機

日本政府が、1991年に747 - 400を2機を政府専用機として購入しました。導入当初は総理府に所属しており、JA8091、JA8092の登録機体ナンバーでしたが、後に航空自衛隊に移管されて、軍用機扱いになって、民間機の登録機体ナンバーは抹消されました。機体管理は航空自衛隊で行っており、英語名は JAPANESE AIR FORCE ONE です。重整備、運航支援、乗務員教育などは日本航空に委託されています。

軍用機と言えば、米国でNKC - 135Aに代わって、747 - 400Fの貨物機を全面的に改造して、各種のレーダーや管制システムを搭載した YAL - 1A 機の開発を行っているようです。開発計



軍用機：YAL-1A

画はだいぶ前から始まったようで、当初は2008年の運用が予定されていましたが、種々の問題や追加能力などの追加で、数年間、配備計画が先延ばしになっているようです。この航空機は、追跡レーザーと標識照射レーザーを組み込んだ状態で飛行して、飛行中のミサイルや敵の航空機に対して、アウトレンジの攻撃が出来るものようです。

### 改修型

#### 747 - 400BCF

旅客機転用の貨物機で、BCFはBoeing Converted Freighterの略です。現在運用されている貨物機の3割以上が旅客機の改造型です。ボーイングはこの傾向が続くと予想して旅客機型747 - 400も転用プログラムを開始しました。これは、旅客機型の747 - 400と客混在型の747 - 400Mの中古機に、機体の側面に貨物搭載のためのドアを装備して貨物機に改修します。747 - 400Fとの主な相違点は、ロングアッパーデッキがそのまま残ることと、ノーズドアが無いことで、性能面では最大積載量と航続距離が若干劣っていると言われていました。貨物搭載用のドアは三菱重工で作られていて、日本航空、キャセイパシフィック航空などが導入しています。

#### 747 - 400BDSF

この機体も旅客機転用型の貨物機で、イスラエル航空工業の独自の改造プログラムのため、ボーイングの純正プログラムと区別して BDSF Bedek Special Freighterと呼ばれています。この機体は、中国国際航空、アジアナ航空、エバー航



747-400 LCF：ドリームシフター

空などが導入しています。

#### 747 - 400LCF

787系列の機体の部品等を製造している各メーカーから、米国の組み立て工場に部品を輸送する為に、中古の747 - 400を改修した、大型特殊貨物機です。LCFはLarge Cargo Freighterの略で、ドリームリフターの愛称で呼ばれています。この機体はボーイングの所有で、運航はエバーグリーン航空が行っております。初飛行は、1号機が2006年9月、2号機が2007年2月、3号機が2008年6月でした。4機目も2010年1月に改修して初飛行を行っております。このLCFの機体は、胴体が72mに延長されており、このような機体の大幅延長は、747のファミリーでは最初のことです。また、機体内部の空間を確保するために、胴体の幅や高さが大きくなりましたが、その他には大きな変化はありません。しかし、機体全体では、胴体だけが盛り上がっている、一寸変わった形になっております。

今回は、主に、747 - 400系列の機体のバラエティーについて、リストアップしましたが、空港に行かれる機会がありましたら、駐機している各国の機体や離着陸の機体を観察して、そのバラエティーをチェックするのも面白いと思います。そして、これらの機体の殆ど全てがコリンズの電子機器を搭載していることを思い出して下さい。

(2011年2月末 記)

このたびの大震災により、被災されました皆さまへ、謹んでお見舞い申し上げます。

水谷 弘 旧姓・真辺 (S19年5月 大阪実科 丙)

## ・ 溘沽収容所 (最終の捕虜生活)

### 1. 地勢

ここは白河 (パイナオ) の河口である。

天津まで37哩 (1哩1852メートル) 「68キロメートル」、この地は水産の要所に当る。白河の水は黄土のため、コーヒーミルクのように黄濁している。河幅も河口が約300メートル、(地勢) = 西に太行山脈、北に燕山山脈、東は渤海にのぞみ、南は河南 (ホウナン)、山東 (シャン・トウン) の両省に広大ないわゆる黄土地帯とよばれる肥沃な平野を展開している。気候は大体において温和といえることができるが冬の寒さ厳しく、春先には有名な蒙古風があって、砂塵濛々たることもある。

蒙古風は気象上『黄砂』とよばれている。物産は農作物が豊かで、綿花、落花生、菜種、果実があり有名なカイロワン炭鉱とセイケイ (ツインテン) 炭坑を主とする石炭は最も著名である。

### 2. 自活

#### (1) 河水の浄化作業

食生活で一番困ったのは飲料水の補給である。捕虜生活で疲労困憊していても、余暇を利用して、各人が積極的に白河の水汲み作業に精出することが日課になっている。〔生水の使用は厳禁である。〕生水には伝染病 (コレラ、赤痢、腸チフス等内臓の病気の部門) の起因となる病原菌が体内に入ることにより病気を引き起こす原因となるので、それを消滅させるために生水を沸騰させてから飲料用として使用するのである。

清浄の方法として、下記の順序で作業を実施。

白河の黄濁の河水を汲んできて、容器に貯める。

(主にドラム缶を利用)

汚物等を沈殿させて、上部の水を汲み取る。

別の容器 (ドラム缶) に移して沸騰させる。

その水を冷却させて、飲料用として使用する。

#### (2) 枯木、枯葉の収穫作業

生水を沸騰させる熱処理のためには、燃料が不可欠である。補給が絶えており、皆無であるので、警備班 (ゲリラ監視) と作業班 (枯木収集) が連携を密にして、近くの野山に潜入して枯木や枯葉を収集して持ち帰るのである。居住区より一歩、野外に出ると、ゲリラの襲撃を避けるために、凡てが隠密行動で緊張の連続である。野山に出るとゲリラに発見される確率が高いので、匍匐前進を繰り返し、草木に身を潜めて行動し目標とする山林に潜入して、枯木や枯葉等の収穫に全力を傾注する。

作業中に時たま、野兎、野犬、蛇、鼠、蜥蜴等を発見すると、常時護身用に携行している6尺棒で素早く相手を一撃する。剣道・銃剣道で鍛えた腕前で「一刀両断」で捕獲に役立った。

その日の夕食は肉料理のご馳走を頂き、気力・体力が充実し、明日からの活動の源となった。

#### 3. 捕虜の食事と扱い

捕虜に与えられる給食は1日1合で米・麦・雑穀を混合したのが主食であり、薄い味噌汁に粗末な漬物が添えられた食事であるので、常時「腹5分」で満腹感はなく栄養失調の一手手前である。重労働の翌日は身体がだるい。

動物を捕獲した日の夕食は、一度に多く食べると腹具合が悪くなるので、軍医の徹底した指導により、健康な心身を培うことができた。

捕虜の扱いは、「敗兵の暴動の一揆を恐れて」殺さず、生かさずで、給食は最小限の栄養で生命を維持させた。

#### 4. 「武士は食わねど高楊枝!!」で

日本兵は堂々としている

日本帝国軍人は「質素を旨とすべし」を心得え、「実践躬行」(自ら実際に行動し実行する)し

ているのである。「質素」は其の本清明の心に出て、これが明き浄き『誠の国民性として古来我が国民生活の上に力強く実践せられ来たものである』殊に我が武人が「清廉潔白」を重んじ、主我的・利己的な黒き心・穢れたる心を排し、最も清純にして剛健なる生活を持し切った事は、尚武の我が国に相応しき事であり、之がやがて剛健なる国民精神として、我が国興隆の大いなる基をなしていることは明白である。

凡そ家を興し国を隆盛ならしむるもの、其の本、必ずや質実剛健に在る。

我等軍人は之を特に軍隊の陣営に於いては質素の範と仰ぎ奉り、聖諭に副ひ奉ることを期さねばならない。

## ・ 帰国命令

### 1. 示達ならびに訓示

黄土の地に拘束されて寒さが一段と厳しくなつたその頃、全員集合、帰国命令が下達される。

示達者：輸送指揮官教育飛行団副団長 Y 大佐

「明日 13:00 溘沽港に向けて出発する。

撤収作業に入る、「立つ鳥後を濁さず」

日本帝国軍人として汚名を残してはならない。

イ．徹底的に清掃すること。

ロ．汚物・ゴミ等不要な物は焼却し、不燃物は埋立てる。

ハ．移動は軽装であり余計な物は処分する。

祖国の土を踏むまでは気を緩めないこと。異国の地で捕われの身であることをよくわきまえて緊張感を持続していただきたい。

戦友の遺骨は、常にしっかり身につけて肌身から離さないこと、特に移動中は慎重の上にも慎重を期して下さい。

移動中に、ゲリラや、暴徒の襲撃に際しては沈着・冷静に対応し万全を期し行動されたい」

指揮官は声を和らげにこやかに

「身体の調子の悪い者はいないか、一歩前に出よ」

しばらく間をおいて、不調者がいないことを確認すると「全員異状なしだね。幾多の困難を乗り

越えてきた。諸君が団結して頑張ってくれた。帰国命令が下達されて、諸君と共に喜びたい。有難う」心温まる訓示をいただく。

感激のあまり嬉し涙が頬を濡している。

戦友同志の眼が潤んでいる。

家族に、愛する人に逢う日がすぐ間近に迫っていると思うと、今まで心の一隅の鬱屈が晴れて爽快な気分が盛り上がってくるが、散華した友が天国から走って来て、帰国する友の後髪を摘み、「君達はいいなあ！！」と声高に叫んでいるようだ。

また、帰国が師走であるので、「あといくつ寝たらお正月」年末に歌った童心が蘇える。複雑多岐にわたる心境である。

## 2. 撤収作業に着手する

軽快なリズムで身体が動く、明るい雰囲気の良い作業効率が良い。

短い拘束された期間であったが、人間が生きていくために、捕虜の身であっても、よくもこんなに多くの生活用品を整えたものだと驚愕する。

戦友達の眼光が炯炯としている。作業に専念するがゲリラの襲撃に備えて警戒態勢は嚴重である。武装解除された軍隊であるので緊張した日の連続である。

捕虜生活で絶望的な淵に追いやられていたが、祖国への生還が現実となるや、心の動きや意識のあり方に明るい希望が膨らみ全員の気持が帰国への大きな期待を寄せるとともに家族の喜ぶ顔が臉に浮ぶ。今までとは違って胸が波打つ。また会話の中にも抑えきれない嬉しさのために、常日ごろとは違ってうきうきした声である。屈従の捕虜生活に一大光明を見いだした次第である。

## ・ 乗船前の防疫身体検査と携行品の再検査

移動はトラックで 30 分、溘沽港に到着する。その間ゲリラの襲撃に強い懸念を抱いていたが遭遇せずに無事について安堵の胸を撫で下ろす。

### 1. 防疫身体検査

船荷の集積用の倉庫は広大だ。衝立で仕切った

部屋の入口には、内科、外科、泌尿器科、皮膚科、眼科等の標示板が掲示されている。軍医の診察を受ける。伝染病を持っていないか、下痢はしていないか、特に性病検査は厳格である。皮膚病、風土病、トラホームに感染していないかの問診と触診である。多数の人間がベルトコンベアーに乗せられたように、夫々の専門医に手際よく診療していただく。「ハイ合格。次の方」と呼んでいる姿に接し頭が下る。自分達はお先に帰国する同胞として複雑な感情が湧いて、次の物品検査場に駆足で向かう。

## 2. 携行物品の検査

広い倉庫内に卓球台のような大きい机に白い布（シーツ）が敷いてある。10個程テーブルが横一列に並んでいる。入口の両側に米軍のMP（military police）が立哨し、検査場内の各テーブルの周辺を歩哨（警戒・監視の任務にあたる兵隊）が自動小銃を構えて不測の事態に対処し得るよう、厳重な警戒の態勢を固めている。

また、夫々のテーブルの両側に米兵と中国兵が2名ずつ計4名が日本兵の所持している持物すべてを背囊から取出し、テーブルに並べて綿密に検査し、金になる品、珍しい物、貴金属、時計、万年筆等を手当り次第情け容赦なく取り上げる。腹が立つが敗兵だから抗議もできない。

遣る瀬ない。悲惨な状態に追い込まれているのである。

昨夜、衣類・食料・持物等を苦心惨憺して背囊〔軍人が用いる箱型で革製の「ナップザック」〕に詰め込んだのに勝者の前ですべてテーブルに強引に引き出されてその上没収の場に直面したのである。

## 3. 帰国への決意

敗戦そして敗兵となり、人生の悲哀を痛切に感じるが、天皇陛下の「終戦の詔勅」で

『今後帝国の受くべき苦難は固より尋常にあらず。爾臣民の衷情を知る。然れども朕（天皇の自称）は時運の趨くところ堪え難きを堪え、忍び難きを

忍び以て万世の為に大平を開かんと欲す。

朕は茲に国体を護持し得て忠良なる臣民の赤誠（少しもうそいつわりのない心）に信倚（信頼）し常に爾臣民と共に在り。

若し夫れ情の激する所濫に事端（事件の端緒）を滋し、或いは同胞排斥（他をおしのけたりおとしれたり）互に時局を乱り、為に大道を誤り信義を世界に失うが如きは朕最も之戒む。

宜しく拳国一家子孫相伝之確く神州の不滅を信じ任重くして道遠きを念ひ総力を将来の建設に傾け道義を篤くし志操（かたく守って変えない志）鞏くし誓って國体の精華（立派な点）を発揚し世界の進運に後れざらむことを期すべし。爾臣民其れ克く朕が意を体せよ。

御名御璽 昭和20年8月15日 各国務大臣副署』

のお諭しを忠実に履行しているのである。帰国の途上にある少年兵（特攻要員〔特別攻撃隊員〕）達は学業を半ばにして、同期の学友達と「靖国神社で再会しよう」と、死を覚悟し、天皇陛下の赤子として、防人として、日本帝国軍人として崇高な祖国防衛の任務遂行に青春の情熱を燃焼させたのである。異国の戦場で航空作戦に参加し大陸の大空で戦闘に挑み、生と死の隣合せの緊張の連続した危険を体験してきたのである。突如敗戦に遭遇するが、自分達は世界に誇る大和民族であることを堅持し、武装解除されても、卑屈にならず毅然たる態度を貫き、常に堂々としていた。日本人は同じ黄色人種のために、白人の植民地政策の打破とアジア民族の独立と解放の推進に最善を尽くしたのである。

祖国日本に生還したら、国家・社会の再建と復興に尽瘁することが、自分達若人に与えられた使命であることを、強く肝に銘じているのである。

### ．米軍上陸用舟艇に乗船

#### 1．米軍海兵隊の厳重な警備態勢

身体と物品の検査が終わり出口を抜けると、目の前に星条旗を掲揚した米軍の上陸用舟艇が岸壁に繋留されている。

時は師走（12月）の下旬、気温は氷点下で待機場の周辺は薄い氷が張っている。東支那海から漣沽港に向けて渤海湾から寒風が荒れ狂うかのように激しく怒濤が吹き曝して繋留されている艦艇が激しく揺れ動いて船体の吃水線（船が水に浮んだ時船体が沈む深さ）を標示する赤い色が上下、左右に激しく動いて鮮明だ。また、岸壁に打ち寄せる海水が岸壁を乗り越えて本船に通じる道路は水浸しになっている。身体検査と物品検査を完了した日本兵は50名単位で乗船の指示が出る。舷側の中央に降ろされたタラップが激しく揺れ動いている。

本船までの道のりは約100メートル。その間武装した海兵隊が警備している。

道路の両側にアメリカ海兵隊員が自動小銃を構えて人垣を作り、監視の目が厳しく異様な空気に包まれている。また、視線を艦船向けると舷の甲板に乗組員が鈴なりのように、ピストルを身につけて整然と横一列に並んで日本兵の行動を見つめている。

待機所で輸送指揮官Y大佐の訓示

「只今から本船に乗船する。艦内においてはすべて米軍の指揮下に入る。

米兵に対しては、日本人として礼をわきまえて、自分の置かれている立場をよく自覚し、すべきこと、すべきでないことのけじめを心得て行動されたい。

環境が如何に変化しても礼儀の精神を失ってはならない。祖国日本への入港は××日である。10日間の航海であると聞いている。東支那海 玄海灘は天候不順であり、強い風で海上が荒れている。船酔の者がでたら底い、助け合い面倒をみてあげてください。全員が事故なく無事に祖国に生還することを祈念する。お互に頑張ろう。」

いよいよ乗船となる。

50名毎にタラップに向う。先任者が注意事項を伝達する。

「艦船が左右・上下に動いている状態で、それに伴いタラップも連動して揺れているので、それを支えているロープを渾身の力で握り、海中に落ち

ないように神経を集中して行動して下さい。特に帰国のため重い背嚢を背負っているのだから動作が鈍く不安定であるので、タラップの階段を昇る足元は充分気をつけて、滑らないように慎重の上にも慎重を期して下さい。」

## 2. 「タラップ」と垂直階段

アメリカ兵が人員の確認が終ると「タラップに行け」と大声で怒鳴る。通路は高波が打ち寄せて海水は舞い上り防寒帽・防寒コート・軍手が水滴で濡れて寒さが身に伝わる。

タラップに足を駆けるが艦艇の揺れが激しいので身体の動きが不安定、バランス（均衡）を保つのに苦労する。両側のロープを強く握らないと海へ飛ばされそうになる。自分のあるだけの力を振り絞って一段一段と昇っていく。

後から戦友が「急がなくていいよ。マイペースで頑張れ」と激励されて元気が出る。

空船なのか赤色の吃水線が高く浮上している。とても鮮やかだ。30数段の長いタラップを昇ると、やっと上甲板に到着する。

視線を下に向けると、蟻の集団が塀を伝って屋根に這い上ってくるかのようなのである。

甲板に上がると警備の乗組員が銃口を構えてのお迎えである。日本兵を囲むかのように白人と黒人の混成部隊だ。

背丈が高い、そして眼球が青い、ヘルメットから黄色の髪がはみ出している白人さん。

眼をキョロキョロしている顔も手も黒い黒人さん。はからずも対面する。初めてである。アメリカは多民族多人種の集まりである合衆国であることを新たに認識する。

艦上であるので、陸上と違って警戒心が旺盛で日本兵に対する威嚇的態度は中国兵以上である。黄色人種を支配してきた白人の優越感を肌で感じる。

無抵抗の日本兵を威嚇している。時たま海に向って実弾を発射する。自動小銃なので機関銃のように連続して弾が抛物線を描いて海面に落ちていく。

久し振りに銃声が「耳を劈くね」と童顔の航空



兵が「空中戦の激闘が懐かしいね」と呟くと、隣にいた同年兵が「俺も貴様と同感だ」と合口を唱える。側で聞いていた学徒兵出身の温厚な飛行隊長が徐に「場所が場所だから言葉を慎みなさい」と穏やかに話かけると、童顔の航空兵が「ハイわかりました」と素直に応える。

上甲板でタラップから上ってきた日本兵が50名になると、カービン銃を身につけた本船の警備隊員が船底に行く昇降用の狭い階段の入口に連行する。

沖から強い寒風に襲われると同時に艦艇の揺れが合成されて歩く足元が不安定で転倒しそうになる。

「早く来い」と、アメリカ兵が怒鳴っている。顔が赤らむている。

自分達は陸軍の航空兵であり、艦船勤務の体験もなく訓練もしていないので、激しい船の揺れに対応できない。「残念と言うほか無い。無念の涙をのむ心境である」。やっとの思いで船底専用の階段の入口に重い荷物を背負って到着する。垂直になっている。幅は人間一人しか通れない狭い階段を降りていくのである。一段降りるたびに足を

踏んばらねば滑って真下に落ちていくので一苦労する。船底まで70段、各階10段毎に踊り場があり、そこで背負っている荷物の傾きを直して、窮屈な冷たい鉄パイプの階段に足を掛けるが軍靴の底が滑って不安定で閉口する。地獄のようにひどい様相だ!! 四苦八苦(大変な苦労)そして悪戦苦闘のすえやっと船底に辿り着く。

今回は、66年の歳月を遡り、1945年当時を回顧し、以下について記述したいと考えております。

- ・ 船底の拘束と時化の航海に耐え、「礼儀の精神」を厳肅端正に実践したこと。
- ・ 祖国に上陸し、引揚援護関係者の温かい歓迎に感動したこと。
- ・ 久しぶりに祖国の自然(山川草木)に接し、「国敗れて山河在り」を実感したこと。
- ・ 生還した人間として、祖国の再建・復興に情熱を傾注することを生き甲斐、義務とすると誓ったこと。

(筆者記)

## 第61回 調布祭ご寄付のお願い

時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

諸先輩方のご支援とお力添えにより、昨年の第60回調布祭は延べ20,000人を超える方々のご来場を戴き盛況に開催されました。改めてここに御礼を申し上げます。

今年度の調布祭開催日は平成23年11月18日、19日、20日の3日間となっています。

今から実行委員一同が一丸となって準備を進めておりますので、是非と足をお運びいただきたく、お待ち申し上げます。

なお、調布祭の運営費は大変厳しいのが現状です。そこで甚だ厚かましいお願いとは存じますが、ご寄付のご協力をよろしくお願い申し上げます。

ご寄付は一口5千円とさせて頂いております。金額の多少にかかわらずご厚志はありがたく受けさせていただきますので、同封の振込み通知書にてお近くの郵便局よりお振込みいただければ幸いです。

尚、ご寄付にご協力いただきました方のご芳名を調布祭のパンフレットに記載させていただき、合わせて調布祭のパンフレットを送付申し上げます。

どうぞ、ご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

第61回調布祭実行委員会 委員長：

**津村 正晃**

# “Inter BEE 2010” に見る放送・映像技術動向

映像技術ジャーナリスト  
石田武久 博士（学術）  
大学院修士課程（電子工学専攻）  
修了（1967）

前号では世界最大のデジタルメディアのコンベンションNAB（毎年4月に米国ラスベガスで開催）について紹介した。本号では日本における放送関連最大のイベント“Inter BEE 2010”における技術動向について紹介したい。

## “Inter BEE”とは？ 今大会の全体状況！

“Inter BEE”は米国の“NAB”、欧州の“IBC”、中国の“BITTV”と並ぶ世界の放送関連4大コンベンションのひとつである。前身の放送機器展は東京オリンピック翌年の1965年に始まり、1982年「国際放送機器展」と名を変え、昨年46回目を迎えた。この間、テレビカメラやVTRなど放送を支える様々な技術を育て、白黒からカラー、衛星放送やハイビジョンそしてデジタルと放送メディアの進展に大きく寄与してきた。

“Inter BEE 2010”はデジタル移行を8ヵ月後に控えた11月中旬、幕張メッセで開かれた。今大会の主な技術動向としては、定着するデジタル化技術、一段と進む放送と通信の融合、取材から制作、送るまでテープレース化とファイルベース化が進みそれに伴い変わるワークフローなどである。中でも目立っていたのは、3D元年を象徴するカメラやディスプレイ、制作や伝送系とも3D映像に関連するものだった。



写1：小型一体型2眼式3Dカメラ（パナソニック）

## 最大のトピックスは3D

併催行事のフォーラムでは「3Dコンテンツ“人間の生体への安全性確保”」というシンポジウムが、民放技術報告会では「3Dを考える～地上テレビ放送完全デジタル化後の新しい技術を求めて～」のパネル討論が開催され、いずれも映像業界、放送界にとって、3Dへの関心の高さを反映し、大盛況だった。

機器展示会場においても、多種多様な3D関連の出展があり、どのブースでも大きな関心と呼んでいた。

パナソニックは“End to End”の3Dトータルソリューションを提唱し、3D対応の152"型PDPを使いプレゼンテーションをやっていた。フレームシーケンシャルでアクティブシャッター眼鏡を使い立体映像を見る方式である。核となる3Dカメラは、1/4" 3MOS(207万画素)をL/R用に2基、2枚のメモリーカードを搭載し、レンズ、カメラヘッド、記録部が一体化された2眼式カメラである。L/R 2CH映像の収録やコンバージェンス調整が可能で、従来のリグ式3Dカメラに比べ、約2.4Kgと大幅に軽量・小型化された。

一方、ビジネス戦略の柱に3D展開を掲げるソニーは、“3D World”を掲げメインステージに大画面LEDの3Dディスプレイを設置した。表面にラインごとに反転する円偏光フィルターを貼った



写2：3D大型LEDディスプレイ（ソニー）

厚さ3mmのLEDパネルを多数枚つなぎあわせ、来場者は円偏光眼鏡を使って3D映像によるプレゼンテーションを見いていた。新開発の小型コンパクトの一体型3Dカムコーダから3Dリグに2台のカメラを装填した大型3Dカメラ、さらに3D映像の加工処理系、2D→3D変換系、そして3D液晶モニターなどを展示した。

NHKメディアテクノロジーは、3D草創期の1990年代からNHK技研と共同で、3Dハイビジョン技術や制作技法の開発に取り組み、多種多様な3D作品を制作してきた。昨年4月には3D中継車を整備し、国内外で3D関連業務を幅広く展開している。今回、3Dカメラのレンズシフトとコンバージェンスアダプターを出展した。マウントレンズ部に簡易な構造の治具を取り付け、2台のカメラの視差角、光軸間隔・センターをリモートで調整可能とした。疲労感の少ない高品質の3D制作が効率的にできるようになる。

3Dコンテンツ制作系では、クオンテル(英)が、3Dブームを引き起こした「アバター」の制作でも活躍した“Pablo”の実演をやっていた。カラーグレーディングがレンダリング無しにプレビューでき、LR 2CHの視差、色の違い、歪などが、立体映像を直接見ながら調整できるようになり、作品仕上がりの向上と制作効率が大いに改善されるようになった。

3D映像の伝送実験も公開されていた。FAシステムは、大和病院で行われた心臓外科手術を3Dカメラで撮影し、H.264にて超高速インターネット衛星“WINDS”で、神戸まで伝送し3Dモニター



写3：調整用アダプター付3Dカメラ（NHK-MT）

20台で上映した時の3Dハイビジョン中継実験の様子を公開していた。またNTTエレクトロニクスは、4CHのHD-SDI信号の完全同期を取ることができるMPEG-2マルチチャンネルエンコーダを使い、パナソニックブースで撮影したLR 2CHの3D映像を同期をとりエンコードし、NTTブースへIP伝送しデコードし3D映像を見せていた。このシステムは、昨年ワウワウが国技館で開催された「ボクシングタイトルマッチ」の3D生中継でも使われている。

### 高度化、多様化するカメラ

デジタルシネマなどの映像メディアの展開に応え高画質カメラが目立っていた。その一方、ファイルベースの制作系と馴染みやすい小型コンパクトなテープレスカメラ、また厳しい経済環境に応えるような高機能で低コストのモデル、さらに前述の3Dカメラと言うように、カメラは近年多様化している。

ソニーは、テレビドラマや映画制作に使うハイエンドカメラとして、スーパー35mmサイズの単板CCDを搭載し、PLマウントのニューモデルを出展した。デジタルシネマカメラの高画質とカムコーダの機動性を両立させ、フィルムカメラ並みの被写界深度と広いダイナミックレンジ、暗部からハイライトまでの階調再現性が実現できる。実績高いXDCAMコーダについては、CCD3板式で、SxSメモリーカードにMPEG HD422・MXFファイルで記録でき、ファイルベースの制作環境とそのままリンクできるニューモデルも公開した。



写4：ハイエンドカメラHDCAM-SR（ソニー）

パナソニックは、豊富なP2HDカメラレコーダにミドルクラスのニューモデルを登場させた。ハイエンド機と同じ2/3" CCDを搭載し、AVC Intra 100で10ビット、F11の高感度と60dB近いSN比を実現し、重量、消費電力とも軽減されワイヤレス伝送も可能になった。またマイクロフォーサーズ(デジタル一眼レフカメラ規格)の4/3"単板MOSセンサーを搭載した低価格のカメラレコーダも展示された。光利用率が高く、低ノイズ、広ダイナミックレンジで、35mmフィルムカメラ同様の被写界深度と画角を実現した。豊富なレンズが使用でき、H.264を採用し、HD、SD、映画の24pに対応する。さらに1600万画素CMOSを使い、約0.1"の高速AFで60iおよび24pでの撮影、記録ができる一眼レフHDムービーカメラも公開されたが、動画と静止画が同じカメラで撮影可能となり、写真とビデオの境界がますます低くなりそうだ。

池上通信機はテーブルスカメラのニューモデルとして、撮像素子に2/3" 230万画素CCD3板、記録メディアにフラッシュメモリーを搭載し、フ

ルHD、MPEG2 422P@HLを採用した高感度、高画質カメラを出展した。本体重量4.5kgで機動性、運用性が高く、ドラマ制作やENG用にも使える。日立国際電気はドッパブル構造(ヘッドと記録部・インターフェース部を柔軟に組み合わせ可能)で、順次走査のフルHDカメラとNHKと共同開発のフル解像度(7680×4320、60P)のSHVカメラを展示した。後者は2.5" 3CMOS(RGB共3300万画素)を搭載した大型カメラで、ブース内のセットを撮影した8K超高精細映像を、ダウンコンバートしたフルフレームの4K映像とオリジナル映像から4K部分を抜き取った映像を切替え、4Kディスプレイで見せていた。

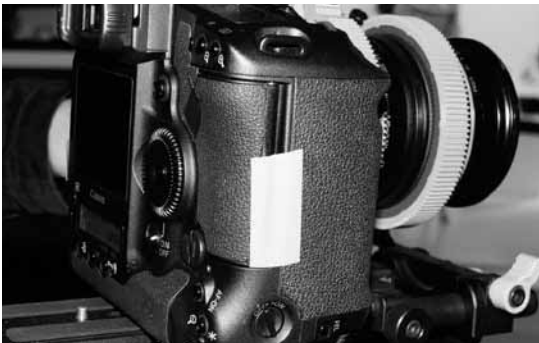
HDTVカメラ用レンズや一眼レフカメラなどで高い実績を持つキャノンは、ファイルベースの小型ムービーカメラを出展した。1/3" CMOS(画素数207万)を使い、フルHD、MPEG2でCFカードに記録する。小型・低価格ながら高画質、高機能で、業務用カメラとして幅広い利用が期待される。また大判の高精細度CMOSを搭載し、HDTV、SDTVの30/24コマに対応する動画撮影



写5：マイクロフォーサーズカメラ(パナソニック)



写6：Inter BEE初登場のSHVカメラ(日立国際電気)



写7：一眼レフムービーカメラ(キャノン)



写8：フィルムライクな“ALEXA”カメラ(ナック)



写 9 : 小型高画質の 4K カメラ (アストロデザイン)

機能を持つ一眼レフカメラ EOS ムービーも展示されたが、最近デジタルカメラで動画を撮影するのが増えており、今後の普及が期待される。

ナックは 35mm フィルムサイズで画素数 3.5K の CMOS を搭載、HD/2K に対応し、PL マウントでシネカメラレンズが使えるシネマ並みの被写界深度が得られる ARRI のフィルムカメラライクな “ALEXA” を出展した。低ノイズでダイナミックレンジが広くフィルムルックの映像が得られ、レコーダと連携しカメラデータを記録し 3D 用に 2 台のカメラの同期をとることもできる。小型軽量、堅牢な構造で、映画、テレビを問わず様々な分野で使われそうだ。また NHK と共同開発の高速カメラ “Hi-Motion” も展示されていたが、220 万画素 CMOS3 板式、フル HD 対応で最大 600 コマ/秒の高速撮影が可能で、順次走査のため CG との合成でも高品質のスロー映像が得られる。

アストロデザインは、1.25" 単板 CMOS (890 万画素) を搭載し、有効画素は解像度 QFGA (3840 × 2160) で HD-SDI Dual にも対応する小型コンパクトなデジタルシネマ用 4K カメラを出展した。また制作分野で実績あるフォトロンは、単板 CMOS (画素数 2048 × 2048)、フル HD で 2000fps の高速撮影ができ、内蔵メモリーで即、高画質のスロー映像が再生でき高速カメラを出展した。スポーツ中継、CM や映画制作などで活躍できる。

### 高画質、高機能化するディスプレイ

高画質、超高精細度化する映像を監視、管理す

る映像モニター、さらに制作されたコンテンツを表示するディスプレイは非常に重要になっている。これまで主に使われてきた CRT は既に製造中止になっており、後継機に向けた動きが活発になっている。

ソニーは、マスターモニターの 3 要素として「正確な色、画像、高い信頼性」を掲げ、トライマスターモデルを並べた。ハイエンドの LCD 型シリーズは、フル HD、10 ビットパネル、120Hz にも対応し、RGB LED 直下型バックライトにより広色域と白の均一性を確保し、高解像度、高階調表示の特性を持っている。CCFL (冷陰極蛍光管) バックライトの高性能モニターは、放送規格の色再現性を確保しつつコスト低下を図った業務用モデルである。また低価格のマルチフォーマット対応の業務モニターも各種サイズを並べていた。また今回は薄型・軽量、黒の再現性・色再現性に優れ、動画応答性が良く CRT 後継機として有望な有機 EL モニターも出展された。

FET ジャパン は 2 年 振りに “FED” (Field Emission Display) を出展し評判になった。ピク



写 10 : 有機 EL モニターの比較表示 (ソニー)



写 11 : マスターモニターとして期待される FED (FET)

セル毎に電子で蛍光体を励起し発光させる低消費電力の薄型平面ディスプレイで、暗部の再現性が良くピーク輝度も高い。応答性が良く動画ぼけが無く、高フレームレートにも対応可能で、自発光なのでバックライトもいらず超薄型と多くの特徴を有しておりCRT後継のマスターモニターとして期待されている。

三菱電機は広視野角IPSパネルを採用し広い色空間を実現し、視点によるカラーシフトを減らしたCG・映像制作用ワイドLCD型モニターを展示した。制作条件や環境にあわせ、色温度(6500/9300K)や輝度の設定、ガンマ補正值などピクチャーモードが選択できるようになっている。さらに超解像技術によりダイナミックにコントラスト補正、滑らかな階調再現、ノイズリダクションによりざらつき感の軽減、倍速駆動により残像感の軽減などを図っている。

アストロデザインは、シネマ制作やポストプロダクション用に中継車やスタジオ副調室に据付け、映像だけでなく信号波形や音声信号や字幕も同時に画面内に表示可能なマルチウィンドウの映像モニターを公開した。また4Kデジタルシネマ用超高精細度の56" LCDディスプレイや前述のFEDモニターも展示していた。

### ファイルベース化進む編集・制作系

最近のIP化の進展に応え、放送局やプロダクションのワークフローは効率的なファイルベース化が進んでいる。カメラからポストプロ、送出からアーカイブまで、コンテンツをファイルベース

で管理、処理し、ネットワーク経由で素材を共有することが可能となる。

池上通信機はシームレスのファイルベース環境として、番組や素材情報を管理するアセット・ゲートウェイ・サーバとコンテンツデータを記録する編集・素材サーバを核に、テープレス素材や回線からの入力系、ノンリニア編集系、送出サーバ系・アーカイブ系をネットでリンクし、全てのデータをファイルで転送するトータルソリューションである。映像、音声、静止画のコンテンツとメタデータが一元管理、運用され、効率的なワークフローの制作、送出環境が構築できる。システム構成要素としては、ファイルベースの“GFCAM”テープレスカメラ、“GFPACK”メモリーパック、“GFSTATION”レコーダ、ノンリニア編集系などから成る。

ソニーは、ファイルベースにより、ワークフローの効率化とコンテンツの表現力、クオリティを共存するとのコンセプトのもと、トータルワークフローシステムを公開した。核となるのは“XDCAM Station”で、内蔵ストレージとして1TBのHDDと2CHヘッドを持つ光ディスクを搭載し、SxSメモリーカード用スロットも持ち、さらにSDIインターフェースも有している。ファイルベースとベースバンド(テープ)系をハイブリッドでシームレスに作業することができ、ワークフローを大幅に効率化できる。

東芝は、多様化する放送サービス、通信との連携による環境変化を想定したワークフローを提唱している。核となるのがフラッシュメモリー



写 12 : トータルワークフロー (池上)



写 13 : XDCAM ファイルベースワークフロー (ソニー)





写 14 : 大人気の “ DaVinci Resolve ” ( Black Magic )

サーバで、高速通信プラットフォームにより異なるサーバ間でMXFファイルでの高速転送が可能で、HD-SDI信号にも対応する。64GBのフラッシュメモリーを基本に構成し、低消費電力、省スペースを実現し、小規模から最大60TBの大規模システムに対応できる。またLTOテープによる大容量サーバも展示されたが、データ転送速度は最大140Mbps、テープ1本の容量は非圧縮時で1.5TBで、中型で594TB、大型ライブラリーシステムは30PBと巨大になる。NECは、ファイルベースの番組バンクサーバとして、記録メディアにHDDとフラッシュメモリー型ディスクを搭載し、MPEG2系フォーマットに対応するシステムを展示した。また大容量メモリーとしてテープベースのLTOメディアサーバも公開していた。

さくら映機は、最近の制作環境にあわせ、NHKと共同開発したノンリニア編集系の実演公開をやっていた。ソニーのXDCAM、パナソニックのP2HD、池上のGFPKの各種フォーマットのテープレスメディアとVTRテープメディア（HD-SDI入力）が混在使用でき、IPネットワーク上でサーバレスで素材を共用できる。VTRライクな操作性で既存のテープシステムとの親和性が高くNHKなどで使われている。

世界中で映像制作システムを手広く扱っているブラックマジックは、ダビンチのカラーコレクションシステムの実演をしていた。同機は80年代半ば頃から世界中で使われてきたが、デジタル化により一層、機能、性能が向上され、映画、CM制作、高品質のテレビ番組制作などで大いに



写 15 : バーチャルスタジオ ( 朋栄 )

使われている。また従来のリナックスに加え、大幅に低価格化したマックバージョンの簡易システムも公開され注目を集めていた。

朋栄は制作・編集・送出・アーカイブにわたるファイルベースの制作システムを出展した。テープメディアや回線受け、ファイルなどの各種素材を一元管理するメディアマネージメント系、新たな制作環境に相応しいスイッチャー類、MXFファイルベースによるノンリニア編集系や制作サブシステム、さらに送出アーカイブまで多彩なハードウェアやソフトウェアで構成される。今回も人気スポットになるバーチャルスタジオの実演展示をやっていたが、仮想カメラは4台、各カメラ毎に最大32ポジションの設定が可能になり、ユーザーの要望に応えセンサーつきカメラも2台可能とした。ブルースクリーン前で演じる人物と背景となるCGなど各種映像との合成が、コンパクトなシステムで、カメラマンレス、ワンマン操作で行われる制作作業が公開され、大勢の見学者が熱心に見入っていた。

### デジタル時代、IT時代を支える符号化技術

IT技術の進歩、放送と通信の連携に応えるような符号化やネット配信に関する出展も多かった。

NTTグループは、HDTV映像をIPネットへ非圧縮でリアルタイム伝送する超低遅延のIPゲートウェイ、4Kデジタルシネマのライブ中継に使うJPEG 2000リアルタイムコーデック、さらに時代の流れにあわせ3D映像の高画質・高圧縮を実現するソフトウェアコーデックなどを出展してい



写16:3D映像の高画質、高圧縮コーデック（NTTアドバンス）

た。また世界初のハイ4:2:2プロファイル対応のリアルタイムH.264エンコーダ/デコーダと非圧縮のHD映像を超低遅延で伝送する実演を公開した。また前述したフルHDの3D映像をリアルタイムでエンコードしIP伝送する実演も公開した。

KDDI研究所は、世界中どこからでも映像情報を高画質で発信できる小型コンパクトな“Vista Finder”を展示した。機動性を向上し、スマートフォンによる簡易映像伝送、複数拠点からの同時受信、中継サーバを用いた録画配信など様々な利用が可能になる。また屋外スタジアムなどでのスポーツ中継映像を、ピッチ内や上空のあらゆる視点から視聴できるようにした自由視点映像配信システムの実演もやっていた。4Kカメラで撮影した映像をサーバにストアし、見たい視点の映像をハイビジョンフレームで抜き取り、リアルタイムで3D化し大画面ディスプレイで見せていた。

符号化技術で高い実績を持つ三菱電機は、低遅延と高画質を両立した高機能符号化技術とNHK技研と共同研究中の次世代高圧縮映像符号化技術を公開した。NECも、超低遅延、高圧縮アルゴリズムによるH.264コーデック装置を出展した。エンコーダ/デコーダとも1Uハーフラックサイズと小型軽量で、オリジナル映像と処理後の映像を映し遅延時間が小さいことを見せていた。中継放送などで、掛け合いの時のタイムラグやスイッチングの切替えタイミングの問題が解消される。

## むすび

アナログからデジタルへのターニングポイント

を迎え、メディア状況が大きく変わろうとしている中でのInter BEEだった。ファイルベースの制作、配信が進み、放送と通信の融合はさらに進展して行く。3D元年到来が喧伝され、4月のNAB、9月のIBC、10月のシーテック、そしてこのInter BEEと3D旋風が吹き荒れた1年だった。さらにInter BEEとしては初めてスーパーハイビジョンも登場し、新たなメディア展開の流れを感じさせてくれた。

本稿を書いているさなか、連日、東北関東大地震の惨状を伝えるニュースが報じられている。地震、大津波の被害の全貌は未だ見えないが、死者、行方不明者を合わせると阪神大地震をはるかに越えるのは間違いない。それにしても気がかりなのは福島原発の行く末である。きっかけは予測を超える規模の大地震とは言え、以前から地震、津波に対する危険性が言われていたのに、妙な安全神話のもとに全国各地に建設され、惨状が起きて初めて知らされた脆弱さには驚かされた。

危険この上ない原子力に頼ってきた日本のエネルギー対策に、今後もっと大きな惨劇が起きるかも分からないだけに身の毛がよだつ思いである。自然の偉大な力を技術力でコントロールできるかのような過信をしてきた人間の驕り、浅知恵に猛省が求められる。それにしても、日本沈没のようなこの事態を我らはしのげるのだろうか。

私事ながら、60代半ばにチャレンジした本学社会人大学院生に、この度区切りをつけることができた。

参考文献：放送技術誌（7月号）、映テレ誌（7月号、8月号）の筆者記事

members' voice

# 水処理について (7)

佃 宣明 (昭和 20 年 三高)

水処理は雨水を飲料水に、排水を再利用するあるいは産業用の水を作ること等、色々な水を加工することである。それには活性炭、化学薬品、微生物、イオン交換樹脂、膜、電気化学的反応、電磁波、情報通信、等々、多種多様な技術が利用される。

中でも膜は膜分離技術によって飲料水から超純水に至るまで、多様なグレードの水を造ることができる。分離膜は人間の皮膚に似ており、必要な物質は逃がさないが人体に不要なものは汗として体外に放出して健康を護る。水処理においても様々な機能を持った膜がその目的に応じて造られている。

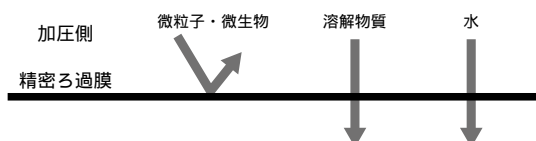
## (4) 分離膜の種類

膜分離とは液体や気体などを、選択性を持った隔壁(膜)に通すことで目的物を濾し分ける操作の総称であり、そこに用いられる膜を分離膜という。主な膜分離操作として、ろ過や透析が挙げられ、物質移動の推進力には圧力差、濃度差、電位差等が利用される。

分離膜の種類とその用途は多種多様であるが、水処理においては膜の細孔の径や膜の荷電性などによって6種類程度に大別される。

### (a) 精密ろ過膜 (MF 膜)

0.1  $\mu\text{m}$  ~ 1  $\mu\text{m}$  の細孔を有し、それ以上の大きさの粒子や高分子を阻止する分離膜である。主として液体中の微生物や微粒子を除去対象として使用される。身近な例としては浄水処理(飲料水)がある。

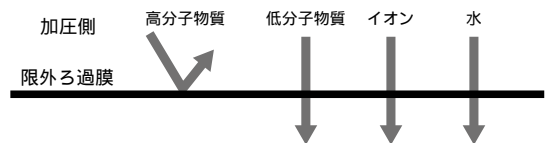


### (b) 限外ろ過膜 (UF 膜)

精密ろ過膜よりさらに細かい2nm ~ 0.1  $\mu\text{m}$  (1nmは0.001  $\mu\text{m}$ ) の粒子やバクテリアなどの微生物、高分子物質などの阻止を対象とした分離膜である。膜表面の孔径は0.01  $\mu\text{m}$  以下であるが、イオンなどの溶解物質や数千以下の低分子量の物質は透過する。

生化学の分野で光学顕微鏡では確認できない微小な領域を限外領域と呼んでいたことがあり、限外領域の物質を分離する膜という意味でUltra Filter (UF) を限外ろ過膜と訳された。

UF 膜では分離可能な物質の大きさを分子量(分画分子量)で示するのが一般的である。



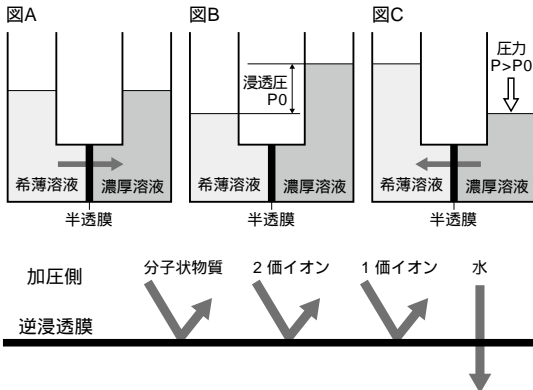
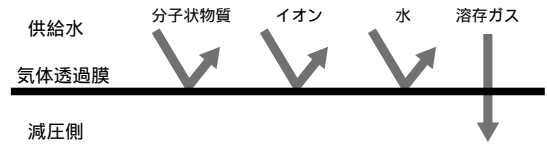
### (c) 逆浸透膜 (RO 膜)

今、世間で良く知られている逆浸透 (RO : Reverse Osmosis) 膜は海水から飲料水を造りだすために発展した技術であり、このRO膜を用い海水のイオン成分を取り除き、真水を手に入れる。

以下に逆浸透 (RO) 法の原理を簡単に述べる。溶媒、例えば水のみを透過する半透膜を介して濃厚水溶液と希薄水溶液を接触させると、希薄水溶液側から濃厚水溶液側へ水が透過して行く。これを浸透現象という(図A)。溶液は濃度差に応じてある水頭差を生じて平衡に達する。このときの水頭差を浸透圧と呼ぶ(図B)。ここで(図C)のように、濃度溶液側に浸透圧以上の圧力をかけると、希薄溶液の方へ水が透過し、塩分などの不純物は半透膜で阻止され濃厚溶液側に残る。

この現象は古くから知られていたが、1960年頃から実用化に向けての開発が進み、現在では中東などにおける海水淡水化装置は蒸発法に変わってRO法が主流を占めるようになってきている。また半導体の製造工程や製薬工程等に使用されている超純水の製造においてもRO法は必須の技術になっている。

窒素ガス等でスイープすることで除去対象のガスの分圧を低くすると、ガスの分圧差に従って供給水中から対象ガスが除去される。



(f) イオン交換膜

カチオン（陽イオン）あるいはアニオン（陰イオン）だけを選択的に透過する膜である。カチオンだけを透過するカチオン交換膜とアニオンだけを透過するアニオン交換膜隔膜がある。これらを交互重ねあわせ、その両側から直流電場をかけると、陽極側にはアニオン、陰極側にはカチオンが移動する。この原理を応用し、脱塩や金属イオンなどの濃縮回収などに利用されている。

(d) ナノろ過膜（NF膜）

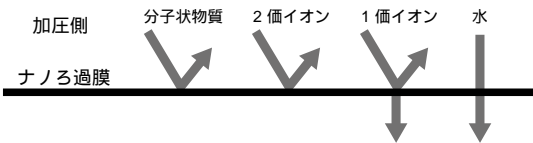
ナノろ過膜はRO膜が発展する段階で、イオンの阻止率をある程度犠牲にして、水の透過性能をより高めたことで派生した膜で、初期はルーズROと呼ばれ、RO膜の一部といえる。

ナノろ過膜にはカチオン（プラス）とアニオン（マイナス）に荷電した2種類があり、硬度成分（Ca、Mg）や硫酸イオンなどの2価イオンの阻止率は高いが、ナトリウムや塩素イオンなどの1価イオンはある程度透過する。

下の表は工業用に普及している分離膜の種類と使用される代表的分野を示す。

分離膜の種類と用途

分離膜	利用分野
精密ろ過膜	上水道、食品製造、産業用水処理、産業排水処理
限外ろ過膜	食品製造、医薬品製造用水、上水道、人工透析
逆浸透膜	海水淡水化、純水・超純水製造、上水道、医薬品製造用水
気体透過膜（ガス分離膜）	各種ガス分離製造、脱酸素、脱炭酸、脱アルコール、脱水
イオン交換膜	食塩製造、海水淡水化、有価物回収



オルガノ社の資料を参考

(e) 気体透過膜（ガス分離膜）

ガスの分離に開発された膜であるが、水処理では被処理水中から気体分子（溶存酸素など）を除去する目的で使用されている。気体透過膜には疎水性素材の多孔膜が用いられており、疎水性によって水ははじかれて透過しない。

次号は水処理について・・・（8）

供給水に対し膜を隔て反対側を減圧、もしくは

members' voice

# 電気通信大学の学園紛争と機動隊導入

西垣 登 (昭和23年6月3期技専卒 元電気通信大学庶務課課長補佐)

1960年代後半、高度経済成長の裏でベトナム戦争が激化の一途をたどっていた時代に、全国的に学生による第二次安保闘争と、全国国公立大学における授業料値上げ反対、学園民主化闘争が起こった。大学の極左暴力集団である全共闘その他左翼学生が、暴力を展開する大学闘争である。全共闘の学生達は、大学当局との大衆団交で自分達の主張を強硬に唱え、それが認められない場合は構内バリケード封鎖という暴力的な強硬手段に訴えた。学園紛争は、全国に波及した。

東京大学では、1968(昭和43)年3月27日に安田講堂が占拠され、翌日に予定されていた卒業式は中止された。以後学内で、封鎖、バリケード、解除が繰り返された。1969(昭和44)年1月18日加藤一郎総長代行の下、8個警察機動隊を動員して、全共闘学生の投石、火炎瓶などによる抵抗を受けつつ、学内の封鎖を解除し、最後に安田講堂の攻防となった。翌19日夕方、学生を

90人検挙し、多数の警察官が重軽傷を受けながら、作業は終了した。この年の春の東大入試は中止され、学生は一人も入学しなかった。

電気通信大学でも、1968年9月頃から、学生寮の負担区分問題が寮生から提起され、「寮の炊夫等全職員の公務員化」を要求してきた。寮生が学内の建物にビラを貼り、多数の寮生がいわゆる大衆団交と称して押しかけてきた。12月7日、学生寮の寮生と松波港三郎学生部長、荒木五六事務局長との寮炊婦の人件費問題等の交渉があったが解決せず、同月20日夕方から本館前庭で寮生が集会を開き、垣内、生島一派の寮生が、夜7時10分頃完全に本館を封鎖した。26日松村学長ら3名が封鎖された本館に入り、約1時間封鎖を解除するように説得したが、垣内、生島らは拒否した。大学は、緊急教授会を再三開いて協議したが解決に向かうことはなかった。

本館封鎖で学長、学生部長、事務局長、事務局の各課の私達は、職場を失い、居場所を奪われて憤慨した。学生の育英会奨学金を払うにしても封鎖学生に頭を下げて関係書類を出さなくてはならない。「これでは仕事が出来ない」と叫んでも、やらなくてはならないことはある。年末29日、寮生側から「1月3日まで休戦」の申し込みがあり、この問題は越年した。

1969年に入り、松村定雄学長は教授会に学長の辞表を出され、教授会は学長代行に岡田幸雄教授を選出した。東京教育大学も紛争で同じく宮嶋竜興学長代行であった。この学長代行は、御二人



とも強硬派の先生で、大変気が合ったようだった。

大学の教授は、偉い先生と思っていたが、こういう事態になると多くの先生が、学生に何も言えないで、避けてゆく方が多い。

我々事務官に先生が叱られ、発破をかけられる場面が多かった。

佐藤庶務課長は、体調が悪く、勤務も不定期であったので、庶務課長の仕事は殆ど課長補佐の私が代行させられていた。そのため、しょっちゅう学長や事務局長に呼び出されていた。

学長車も出せなくなり、私の車に岡田学長代行を乗せて調布警察署へ何回か行った。代行は、学年末試験、卒業式、入学試験を目前に控え、焦っておられた。署長は、「学長さん、そう焦らないで学生とよく話し合ってください。私の息子も駒場へお世話になっています」と言われた教授会も公権力によって解決するより仕方がないという空気があった。学内で教授会が開けないので、多摩川の料亭を「どんぶり飯一杯」で借りて、機動隊導入を決めた。

私は、学長代行、松波学生部長、荒木事務局長等に乗せて、警視庁へお願いに行った。

2月27日早朝7時、警視庁機動隊300人を導入して、まず岡田学長代行が、本館にいる学生に退去命令をマイクで何回も行った。ここで予想外のことが起こった。本館内の学生は、10名前後と見ていたが、電話で寮生を呼び寄せたのである。退去命令に従わないので、機動隊は本館内に突入した。学生はこれに抵抗したので、不退去罪と公務執行妨害罪で逮捕され、手錠を嵌められ、両側に機動隊員が付いて、本館近くのうっすらと雪をかぶったテニス・コートに整列させられた。なんと129名(内女子1名)だった。殆どが今朝寮から動員された寮生である。味噌も糞もわからない状態になった。警察側は予想外の逮捕者で困ったが、調布警察署だけでは処理出来ず、いくつかの警察署で取り調べたようだった。逮捕された学生は、取り調べを受けて、一晚留置場に入れられ釈放されたようだ。大部分の学生はこれで懲りて、以後このようなことから手を引いたようだった。

大学は2週間休校措置をとって、学年末試験を行った。試験を正常に行うため、私達は正門等の警備に立った。以後次第に平静になってきた。

(2010年12月記)



正門の警備に立つ筆者



members' voice

## 異色の風雲児「小日向白朗」

倉井永治 (昭和19年4月卒 板実)

今から一世紀程前、大正時代のはじめに多くの若者達が大陸（現在の中国地方）を志したが、その中で大陸へ渡り波乱万丈の半生を過した一人の人物について述べてみたいと思う。これは昭和45年にある書店で偶然入手した一冊の本によるもので、私はその痛快さに文字通り寝食を忘れて没頭したものである。勿論、この物語りは稗史（正史のように教科書に載らない）の範疇に属するものであるが、長篇であり、その概略を簡単に述べるにとどめた。その時代の世相の一端を、少しでも理解できれば幸と思う。

「俺も行くから君も行け  
狭い日本に住みあいた  
波立つ彼方に支那がある  
支那に四億の民が待つ」

これは、明治から大正の世に、若者達の間で流行した「馬賊の歌」の最初（一番）にある文句である。「支那」とは現在の中国のことで、「四億の民」とは明治時代に中国の人口が四億と云われていたからである。

1914年（大正3年）セルビアの青年による一発の銃声により第一次世界大戦が始まり、日本は少ない犠牲で大きな利益を得た。そして5年後に漸くその戦火も終息し、我国では大正デモクラシーが花開き、漸く平和が訪れたと思われる頃であった。「小日向白朗」もそのような時代を背景に大陸（中国）へ渡った少年の一人である。

後に「馬賊王」と云われた小白竜（現地語ではシャオバイロンと発音）こと小日向白朗氏は、わが新潟県は三条の町の産である。消極的と云われる県人から希に異色の人物が現れる。彼もその一人であろうか。三条の町は新潟県のほぼ中央部に

位置し、信濃川と五十嵐の合流点にあり、隣接する燕市と共に「かなもの」の町（大工道具、台所用品、フォーク、スプーン等の洋食器を生産）として知られ、洋食器は海外へ輸出している。

明治33年（1900年）正月、白朗は信越線三条駅前の馬車屋の二男として生れた。少年時代は手のつけられない程の腕白小僧であり、小学生のとき警察署に留めおかれ、そこから通学したという事もあった。しかし「栴檀は双葉より芳しい」というべきか、学業は抜群の成績であり、家業の車曳きを手伝い、また新聞配達等をして小遣い銭をかせぎ、「少年」「幼年の友」「日本少年」「武俠世界」「冒険世界」など当時の少年向けの雑誌を購読した。そして14歳のとき、貯金の40円をフトコロに単身上京し、親類の金物問屋に奉公したが嫌になり、やがて一本立の屑屋の商売を始めた。持参した40円が商売のもととなったのである。手はじめに古フンドシと古足袋を仕入れて商売を始めたが、古フンドシが儲けの元となった。（当時、問屋では古フンドシが1銭5厘から3銭2厘であったという。）古フンドシの商売があったとは初耳であるが、恐らく綺麗に洗ってある使い古しのものを売る商売と思う。（当時の品物を大切に心が伝わってくる。）その後第一次世界大戦（大正3年から7年、1914年～18年）が始まると苛性ソーダの古ドラム缶を解体して、その鉄屑を故郷の兄が経営する鉄工場へ送るなどして五千円程（現在の金額にして五百万円以上）の大金を稼いだ。彼は商売にも特異な才能を見せたのである。

当時の青少年は、我国が国運をかけた日露戦争に勝利し、ポーツマス条約（明治38年9月、1905年）で朝鮮半島の支配、遼東半島の租借権、及びロシアが建設した南満州鉄道の權益を譲り受ける等の影響により、大陸志向が盛んであった。

狭い日本から出て広大な大陸で自らの可能性を試したい、という漠然たる大志を抱くのも無理のない世の中であった。

小日向少年は、当時有名であった福島安正の「シベリヤ横断記」を読み、漠然たる野望を抱いて支那（中国）を志向し、その当時、世界の秘境と云われたチベットを目指した。そして、まず足馴らしにと朝鮮半島を徒歩で縦断し、漸く満州（現在の中国東北地方）の奉天駅に辿り着いたのであった。時に大正5年（1916年）、16歳のときである。見かけは旅塵にまみれた一人の少年であったが、懐には東京で稼いだ大金（5千円のうちの2千円）があり、彼の気を強くしたのである。その後、北京へ入り北京大総統府の顧問、坂西陸軍少将の世話になった。また、そこには日露戦争で活躍した「敵中横断三百里」の主人公、建川陸軍少佐も居り同郷人（新潟県）として可愛がられた。

余談であるが、山中峯太郎の著書であるこの「敵中横断三百里」の物語りは、昭和5年に少年倶楽部（少年向けの雑誌）の4月号から9月号迄連載され、その後単行本として発刊された。それは日露戦争中、秋山騎兵団に属する第九騎兵連隊の建川美次騎兵中尉外5名の「騎兵挺身斥候隊」による300里（約1200キロメートル）に及ぶロシア軍陣地の偵察記録である。この実録物語りは全国の少年達の血を湧かせ、大正末年生れの私も手に汗を握って読んだ懐かしい記憶がある。なお当時の状況を作家の遠藤周作氏は、「少年倶楽部が本屋に出る日、私は学校でも落着かなかった。……お金を貰って本屋へ飛んで行ったものだ。山中峯太郎や平田晋作の名を忘れることのできる戦中派が居るであろうか」と、述べている。なお、「敵中横断三百里」の主人公、建川中尉は新潟中学（現在の新潟高校）の出身である。

大正8年は第一次世界大戦が終了した翌年であるが（大正7年12月に電通大の前身、無線電信講習所が創設された。）この春、小日向少年は坂西少将の陸軍機関員（俗に云う「軍事探偵」）として外蒙古へ潜入し、シベリヤを目指したのである。しかし、一頭の馬に大金を積み、黄塵万丈の熱河省を行く拳銃一丁の少年旅行者を、指をくわえて見過す馬賊は居なかった。彼は「あっ」と云



う間もなく馬賊の一団に捕えられ、此の地方の馬賊の親分（現地語で「大攪把」と云う）である楊青山の下端として酷使されるのである。然し、この惨憺たる出発点が、後に満州、外蒙古、北支那に「総攪把」（馬賊の最高親分）としてその威名を轟かせた「小白竜」（小日向白朗氏の馬賊名）になろうとは誰が予想したであろうか。

ところで、「馬賊」の定義は何か、総攪把であった小日向氏自身が答えている。「馬賊、すくなくとも正統的な遊撃の精神は任侠の一語である。私は或る時は単身拳銃をとって敵と戦い、あるときは百千の配下馬隊を率いて山野を進軍した。そうして数えきれない程行った決斗の場に臨んで、いつも心魂に徹して忘れなかったのが、この「任侠」の文字であった」と。また、「官の権力に対抗して武装せる農民としての馬賊、農民暴動の一形態としての馬賊、そうした中国の近代史と切っても切れない関わりを持つ馬賊の真の姿を……」と。また氏は次のようにも語っている。「馬賊の攪把（頭目）の生活はそんなに簡単なものではない。まして大攪把と云われ、総攪把（総頭目）と云われる者の複雑多岐な生活を、いったい日本の作家の誰に書き切れるものか」と。

ここで、明治から大正の世に、特に青少年の間でよく歌われたという「馬賊の歌」を紹介する。（これで全部かどうか不明だが、判明しているもののみ記載した。）小日向氏も全部覚えていたという此の歌は、当時の世相や若者達の雰囲気を彷彿させる歌でもあった、と云える。

前述の一番に続いて、以下二番から七番まで記

載する。

- 二、昨日は東、今日は西  
流れ流れし浮草の  
果てしなき野に唯一人  
月を仰いで草まくら
- 三、くにを出るときや玉の肌  
今じや槍傷刀傷  
これぞ誠の男子じやと  
ほほえむ顔に針の髭
- 四、長白山の朝風に  
剣をかざして俯し見れば  
北満州の大平野  
僕の住家にやまだ狭い
- 五、御国出てから十余年  
今じや満州の大馬賊  
垂細垂高根の間から  
くり出す手下が数千人
- 六、今日吉林の城外に  
木だまに響くいなきも  
駒のひづめも忍ばせて  
明日は襲わん奉天府
- 七、長髪清くなびかせば  
風は荒野の砂を捲き  
竜が血を吐く黒竜江  
月は雲間を抜け出でて  
ゴビの砂漠を照らすなり、と。

緑林の英雄として、数千の馬賊を配下におく総頭目（総攬把）としての白朗は、人望とともに当然ながらその経済力も抜群であった。小白竜は権力に対しては秋霜烈日に臨み、貧しい民衆には慈母観音の如く接して恵みを施した。小白竜（シャオバイロン）の名は救世主として民衆の心に深く入りこんだのであった。

昭和12年（1937年）7月7日、支那事変（日中戦争）が勃発した。白朗は馬賊の最高責任者（総攬把）として数千の配下馬賊を率いて、現地の日本軍に協力したが、馬賊部隊を利用して優位に作戦をすすめ、不用となれば弊履の如く捨てる日本軍の行為に失望し、「上海」へと去ったのである。「国際都市、上海」、此処は複雑怪奇、権謀術策

の渦巻く大都会でもあるが、変り身の早い白朗は水を得た魚の様に活躍した。その様子が生き活きと述べられている。しかし、時局は逼迫し、此の自由都市も「自由」を失いつつあった。時局をみるに敏な白朗は、今が汐どきと、相当の財を得て、多くの部下と別れを告げ、飄然と「上海」を後にしたのであった。時に昭和19年1月、日本の戦局が大きく傾いているときである。

上海を去った白朗は、かねて買い求めておいた無錫県前州鎮の家（ここに3,600坪程の農地もあり、年に原米200俵程の収入がある。）へ帰ったが、又飄然と旅立ち寺々を廻って参禅につとめた。そして無錫の竜海寺で参禅中、突然踏み込んできた国府軍兵士に捕えられた。時に昭和20年8月15日（日本が降伏した日）で、かつて日本軍に協力した、との理由であった。（白朗は中国人とされていたのである。）しかし馬賊の総頭目として貧しい民衆に施した行為は、それらの人々による差し入れや嘆願もあり、又日本人と判明して昭和23年（1948年）12月8日に釈放された。不屈の精神と強靱な体力、そして自らの信念が彼自身を救ったとも云えるのである。（この時期、中国では国府軍が優勢であったがやがて共産軍の天下となる。また此の頃、日本の高級軍人も戦犯として処刑され、かつて男装の麗人と云われた川島芳子も昭和23年3月、白朗と同じ監獄であったが他に移された後に処刑された。）

解放された白朗は、好意ある多数の人々やかつての配下馬賊の支援により、直ちに日本へ帰国する機会もあったが、永年親しみ活躍した中国の実情を確認の上、8ヶ月後の昭和24年8月、海賊の協力や、かつての配下馬賊の協力もあって上海から無事帰国したのである。（当時は日中間の自由な航行は不可能であった。）時に白朗49歳、16歳に中国へ渡ってから33年の歳月が流れていたのである。

670頁（1頁は21行2段で1092字）の長編に及ぶ此の稀書の裏面に、かつて私が貼付した新聞の切抜記事が白朗氏の死去と生存中の活躍の概要を報じている。即ち、昭和57年1月9日付の「新潟日報」新聞紙上による死亡記事は、

「馬賊の頭目、大往生」の見出しで、

「昭和57年1月5日、東京都小平市上水南町685-6の自宅で81歳で死去」とあり、簡単な経歴が記載されている。また、その下段には大きな見出しで、

「満州30年、縦横無尽の人生、

三条出身、死去した馬賊の総頭目、小日向氏」のタイトルで、かつての活躍の概要が報道されている。また、そのあとに「氏は帰国後、昭和二十年末に上京し、その後九州方面に在住したが再び東京へ出て右翼の政治事務所を主宰し、素人には知り得ない政治の裏面に精通していた」という記事がある。

なお、此の本の著者はその「あとがき」に「本書は当時の多くの若者に希望と感動を与えた」と記載しており、また、初売当初、銀座の書店では特別にウインドウに飾られ、本書の右側に「竜馬がゆく」、左側に「憂国」の本が評判作として並んでいた、と誇らしげに記している。

然し、いづれにせよ、私にとって此の一冊は、波乱万丈の人生を送った人物の、日本の近現代史の表面に出ない、大正時代から終戦にかけての「時代」を識るにふさわしい一つの物語りであった、との印象が強く残るのである。

ところで、同じ日本人馬賊でも「夕陽と拳銃」等の著書で人口に膾炙された馬賊の張宗援こと「伊達順之助」は、終戦後の昭和23年9月9日の夕刻、中国の上海監獄、東の刑場で処刑された。しかし、総攬把の小白竜こと小日向白朗氏は、前述のとおり貧しい人々に施した善行の故か、幸運か、越後人のネバリ強さを発揮して釈放され、無事帰国し81歳の天寿を全うしたのであった。

なお、この物語りは、前述のとおり正史でなく、いわゆる「稗史」(稗史は学校で教えない)であるからこそ痛快であり、またそれなりの意義があると思っている。ところで、小日向白朗氏は、馬賊の総親分(総攬把)というからには城塞の様な館に居住し、あまたの馬賊に囲まれて君臨していたであろうと想像するのであるが、在満時は満州の都である奉天市街の瀟洒な洋館にほとんど一人で居住し、独身貴族のような生活であったという。(白朗は帰国するまで独身であった。)然し事が起きた場合には迅速な指令のもと、満州等各地に散

在する馬賊の親分(大攬把)は彼のもとに急遽参集し、白朗の命令一下、忠実に行動した。総攬把である白朗の命令は「絶対」であり、総てを信頼していたのである。

白朗は一見馬賊に似合わない、小柄で雪国の出身らしく色白な美男児であり、その日常はヘボ暮を打ったり、南京豆をかじったりしながらホラ話に明け暮れる等、飾らない生活であった。しかし、事が起きた場合は迅速な行動と周到な準備、気迫溢れる行動に敵対した相手は恐れ入ってひれ伏したという。こんな話がある。現地にあった日本軍師団司令部の某経理部長(陸軍中佐)が「馬賊の親分なんて何程の事やあらん」と白朗に会う為に彼を呼びつけた事があった。白朗は中佐の室内へ入ると、じっと相手をにらみつけた。すると、あの椅子にフンゾリ返っていた陸軍中佐は、中腰のまま故障した機械人形のように動けなくなり、目を丸くして汗をにじませ、口もきけない状態になってしまった。白朗は、のっしのっしと進み出て椅子にドックと腰をおろし、胸に腕を組み「私が小日向白朗です」と名乗った。その途端、中佐は呪縛が解けた様に椅子に尻もちをつき、「ハーッ」と吐息と共に机に両手をつき、「これは、ようこそ」と叫ぶように云った。(以後この軍人は白朗に心酔し、協力した。)案内した知人は、「小日向先生は、毎日バカ話ばかりしているが、やっぱり不思議な力を持つ人だ。」と述懐している。この話は白朗の一面である。彼は又拳銃の名手でもあり、「小白竜の電線撃ち」は有名であった。

白朗は若い頃、苦悩の末、満州の遼東半島にある馬賊信仰の聖地「千山」で厳しい修業を積み、また生死を超越した修羅場を幾度となく経験し、絶対に屈しない、という自信と体力、そして貧しい人々や弱い立場の人達の為に、という正義感を修得したものと思われる。

「弱者の味方である」という精神は、故郷の三条の町で過した少年時代からのものであった。

(終り)

## 飯島澄男特別栄誉教授 学士院新会員へ！

この度、電気通信大学の飯島澄男特別栄誉教授（昭和38年電波通信学科卒）が平成22年12月13日開催の日本学士院第1044回総会において、日本学士院会員に選定されました。長年にわたるご研究とご活躍に改めて深く敬意を表しますとともに、心よりお慶びとお祝いを申し上げます。

目黒会

## 平成23年 新年交歓会ご報告

平成23年新年交歓会は1月26日夜、電気通信大学内大学会館3階、レストラン・ハルモニアで行われました。

大学からは梶谷学長をはじめ、理事4名、田中・阿部副学長、酒井・前田学長特別補佐、船井監事、合田顧問、加古研究科長、坂口センター長と13名もの大学組織代表にご出席戴き、更に事務方からは2名の副理事、4名の課長、3名の課長補佐と総勢22名の教職員の方々にご出席戴きました。

一方、目黒会側は21名の現理事、5名のOBの計26名が出席し賑やかに行われました。

会は、山森専務理事の司会進行で進められ、安田会長からは、新年交歓会に先立って行われた理事会で発表した「来年度の基本方針」について紹介がありました。引き続き梶谷学長から、大学の経営状況が良好であり、イノベティブ研究棟について紹介がありました。

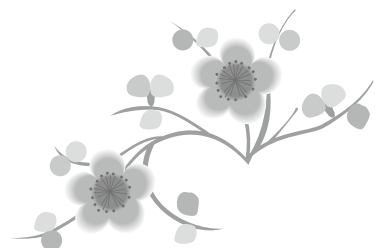
続けて目黒会芳賀副会長から乾杯のご発声を戴き、宴が始まりました。

会場では、大学から参加して戴いた多くの方と目黒会の面々であちこちに会話の花が咲き、時を忘れて盛り上がりました。

やがて8時となり、福田理事から来年度開始する新奨学金制度の紹介がありました。次に阿部副学長から目黒会の就職支援に対するお礼が述べられ、高島副会長の三本締めでお開きとなりました。

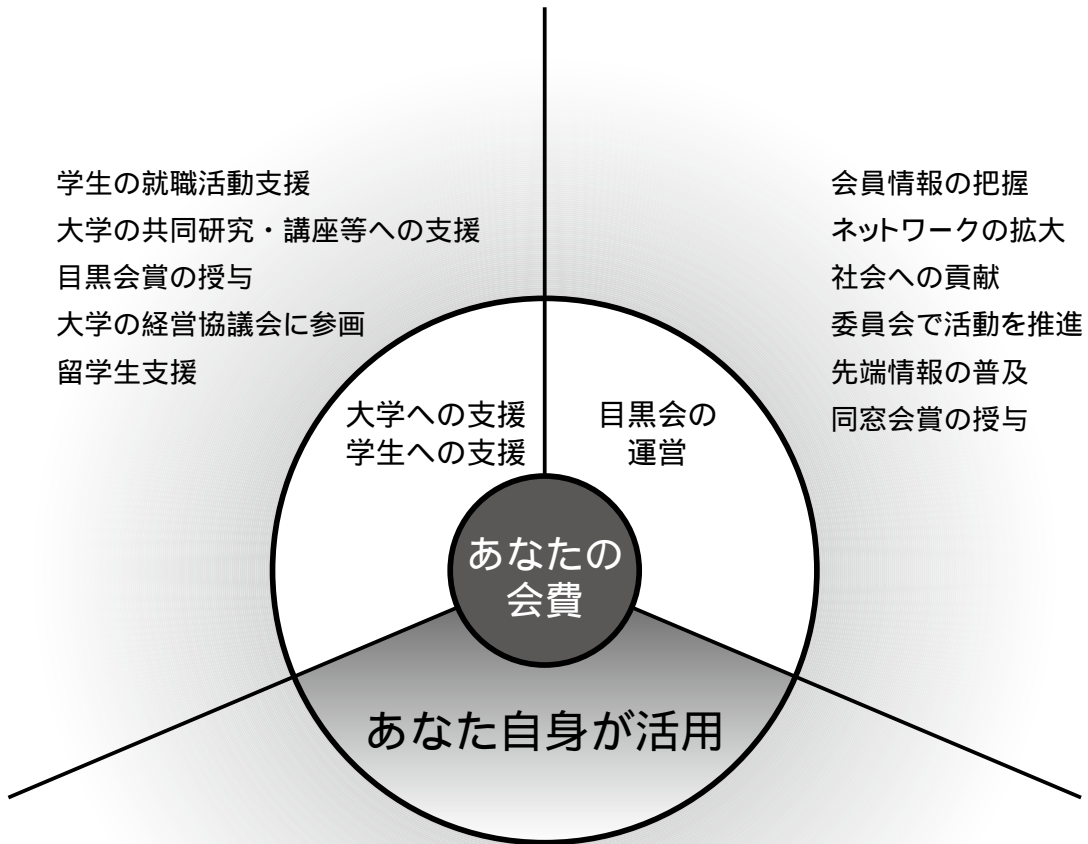
ここに、ご多用の中、ご参加いただきました皆様に心より御礼申し上げます。来年もまたお会いしましょう。

目黒会事務局



正会員  
募集!

# きっとあなたの財産になる 同窓生約6万人のネットワークと 母校とのつながり



**目黒会は、こんな時にもお役に立ってます。**（現在、推進、検討、企画中の項目が含まれます。）

社会人ドクターを取ってみたい。自分で取れるだろうか。

ベンチャーを起こしたいと計画中。どうしたらいいのか。

転職を考えている。良い転職口はないだろうか。

クラス会・研究室の会合を開きたい。連絡方法・手段、他に支援はないかな。

目黒会は、大学を卒業すると全員普通会員です。普通会員には教職員も含まれます。会費を納めて頂くと、その時点で正会員になります。

また、過去何年納めていなくても今年の分からで結構です。さかのぼって会費を求める事はありません。

詳細は、目黒会ホームページまたは目黒会事務局へ E-mail・電話・ファックスでお問い合わせ下さい。



# 子供工作教室等 ボランティア募集中!!

現在、地域社会貢献の一環として目黒会は『子供工作教室』『おもちゃの病院』『調布少年少女発明クラブ』などを支援しており、皆様の参画を呼びかけております。

- \* ボランティア内容  
子供工作教室などに参加する子供達に工作を教える
- \* ボランティア参加日  
約 2 回 / 月 開催。さらに準備のために 2 回 / 月程度の参加が必要
- \* 場 所  
原則、電通大 80 周年記念会館（目黒会本部建物）、時に都区内に出張開催あり
- \* 謝 礼  
1000 円 / 開催日（準備日を除く）・交通費実費（最大 1500 円）
- \* 募集人数  
若干名
- \* 問い合わせ先  
目黒会事務局 〒 182-8585 東京都調布市調布ヶ丘 1-5-1 電気通信大学内  
TEL 042-482-3812 FAX 042-482-3845  
E-mail info@megurokai.or.jp URL http://www.megurokai.jp/



## 子供工作教室の事前準備風景

動作原理の教え方・注意点・工作教室に配布する内容物の事前準備。

## 子供工作教室当日の指導風景

子供からの作り方などの質問に答える。  
難しそうなおポイントを良く説明する。  
危ない点などは念入りに注意を与える。  
十分に理解出来ない子供には個別指導。



## 第54回

# 目黒会移動体通信研究会開催予告

第54回移動体通信研究会は諸般の事情により下記のように  
8月開催から10月開催へと延期させていただきます。  
講演テーマの最終版及び参加申し込み方法は、  
7月頃に目黒会のホームページ (<http://megurokai.jp/>) に掲載しますので、  
なるべくこれにアクセスしてお申し込みください。

### 講演会

日時 **平成23年10月6日** 10時～17時30分  
場所 **電気通信大学 80周年記念会館3階**  
参加費 一般 / 3,000円 (予稿集付)  
シニア(70歳以上) / 2,000円 (会費1,000円、予稿集1,000円)  
学生 / **無料** (但し、予稿集代1,000円)  
終了後懇親会 : 1,500円

講演内容 (詳細は変更の可能性があります)

1. **ホワイトスペースなど新たな電波の利活用に向けて**  
総務省総合通信基盤局電波部電波政策課長 渡辺克也
2. **スカイツリー、東京タワー電波利用計画** (NHK関係者交渉中)
3. **ISDB-Tmmによる携帯向け放送計画** (講演者交渉中)
4. **LTE モバイルの高速通信サービス** (講演者交渉中)
5. **はやぶさの深宇宙電波通信技術** (JAXA講演者交渉中)
6. **ATACS 無線による列車制御システム**  
JR東日本 鉄道事業本部電気ネットワーク部 課長 ATACSプロジェクト  
馬場裕一

### 見学会

日時 **平成23年10月7日** 午後の予定  
見学先 **JAXA 相模原キャンパス** (主としてはやぶさの施設)  
経費 **交通費、参加者負担**

# リサーチ日記

## 2010年10月

コミュニケーションホール(1F)  
 就職相談 99名・面接練習 7名 目黒会  
 企業さん来訪 13社 目黒会  
 囲碁クラブ(毎週金曜日) OB・職員・学生  
 調布市少年・少女発明クラブ(第2土曜日) 大学・OB  
 おもちゃの病院(第3土曜日) OB  
 こども工作教室(第4土曜日) 大学・OB  
 首都圏総支部役員会 目黒会  
 学術委員会・移動体研究会 目黒会  
 就職委員会 目黒会  
 記念会館協力支援委員会 目黒会  
 規則委員会 目黒会  
 組織委員会 目黒会  
 財務委員会 目黒会  
 ICT委員会 目黒会  
 ミュージアム(2F)  
 見学 学生  
 フォーラム(3F)  
 理事会 目黒会  
 企業研究展示会説明会 目黒会  
 マスコミセミナー 目黒会  
 第二回アルバム委員会 目黒会  
 創業経営支援セミナー 大学  
 高校説明会 大学・入試課  
 就職セミナー(学生ランチ)  
 技術経営実践スクール 大学  
 地域産業振興講座 大学  
 妖怪検定 大学  
 多摩活性化教室 大学

## 2010年11月

調布祭 19日(金)~21日(日)  
 コミュニケーションホール(1F)  
 就職相談 65名・面接練習 7名 目黒会  
 企業さん来訪 8社 目黒会  
 囲碁クラブ(毎週金曜日) OB・職員・学生  
 調布市少年・少女発明クラブ(第2土曜日) 大学・OB  
 おもちゃの病院(第3土曜日) OB  
 就職委員会 目黒会  
 組織委員会 目黒会  
 EATEC 打合せ  
 ミュージアム(2F)  
 見学 学生  
 フォーラム(3F)  
 首都圏総支部総会 目黒会  
 入試説明会 大学  
 創業経営支援セミナー 大学  
 技術経営実践スクール 大学  
 地域産業振興講座 大学

## 2010年12月

コミュニケーションホール(1F)  
 就職相談 76名・面接練習 5名 目黒会  
 企業さん来訪 17社 目黒会  
 囲碁クラブ(毎週金曜日) OB・職員・学生  
 調布市少年・少女発明クラブ(第2土曜日) 大学・OB  
 おもちゃの病院(第3土曜日) OB  
 こども工作教室(第4土曜日) 大学・OB  
 EATEC 打合せ  
 就職委員会 目黒会  
 規則委員会 目黒会  
 記念会館協力支援委員会 目黒会  
 首都圏総支部役員会 目黒会

ミュージアム(2F)  
 見学 学生  
 フォーラム(3F)  
 理事会 目黒会  
 就職セミナー(学生ランチ)  
 技術経営実践スクール 大学  
 多摩活性化教室 大学  
 セミナー OB

## 2011年1月

コミュニケーションホール(1F)  
 就職相談 110名・面接練習 7名 目黒会  
 企業さん来訪 3社 目黒会  
 囲碁クラブ(毎週金曜日) OB・職員・学生  
 調布市少年・少女発明クラブ(第2土曜日) 大学・OB  
 おもちゃの病院(第4土曜日) OB  
 こども工作教室(第4土曜日) 大学・OB  
 就職委員会 目黒会  
 法人移行TF 目黒会  
 ICT委員会 目黒会  
 ミュージアム(2F)  
 見学 学生  
 フォーラム(3F)  
 理事会 目黒会  
 企業別就職相談会 目黒会  
 名誉教授懇談会 大学・総務課  
 技術経営実践スクール 大学  
 多摩活性化教室 大学  
 技術経営実践スクール 大学

## 2011年2月

コミュニケーションホール(1F)  
 就職相談 146名・面接練習 21名 目黒会  
 企業さん来訪 11社 目黒会  
 囲碁クラブ(毎週金曜日) OB・職員・学生  
 調布市少年・少女発明クラブ(2月は出前のみ)  
 おもちゃの病院(第3土曜日) OB  
 就職委員会 目黒会  
 組織委員会 目黒会  
 規則委員会 目黒会  
 学術委員会・移動体研究会 目黒会  
 広報委員会 目黒会  
 法人移行TF 目黒会  
 創立80周年記念会館活用検討WG  
 ミュージアム(2F)  
 見学 学生  
 フォーラム(3F)  
 公開講座 大学  
 地域産業振興講座 大学  
 技術経営実践スクール 大学  
 多摩活性化教室 大学

## 2011年3月

11日(金)に東日本大震災が発生したため  
 計画の大幅変更がありました  
 コミュニケーションホール(1F)  
 就職相談 147名・面接練習 37名 目黒会  
 企業さん来訪 8社 目黒会  
 囲碁クラブ(毎週金曜日) OB・職員・学生  
 おもちゃの病院(第3土曜日) OB  
 調布市少年・少女発明クラブ修了式  
 就職委員会 目黒会  
 規則委員会 目黒会  
 財務委員会 目黒会  
 法人移行TF 目黒会  
 組織委員会 目黒会  
 ミュージアム(2F)  
 見学 学生  
 フォーラム(3F)  
 理事会 目黒会  
 セミナー(産学官連携センター)

# 支部・クラス会

## 支部だより 北海道支部



7月24日 札幌大倉山ジャンプ場にて

北海道には、北海道大学を始め、室蘭工大や北見工大等の理科系国立大学があります。同窓会でよく見かける光景。道内出身者に対しては「あなた、なんでまた電通大に行こうと思ったの？」また道外出身者に対しては「あなた、何でまた北海道に来たの？」。参加する同窓生がみんな訳ありなのです。北海道には300人ほど、その内札幌には150人そしてそれ以外の地域に150人の卒業生が暮らしています。かつては遠洋漁業、海上保安庁、青函連絡船などの方面に従事している方が多く住まわれていたようですが、現在は大手のメーカーなどの生産拠点や研究所などが道内にはないので、卒業生も少なくなっているのが実情です。北海道支部は今年で7年目を迎え、これまでに11回の同窓会を開きました。毎回10～20人ほどの方が参加されています。多くの地域に目黒会の支部があり、同窓会を開いていることは、ほとんどの方がご存知だと思います。しかし、知ってはいるけど参加したことはないという方がまたほとんどだと思います。「知り合いのいない会に行く気がしない」「きっと行っても面白くないだ

ろう」「会費払ってもそれだけのことがあるのだろうか？」わかります。同じ学年、同じ学科、同じ部活の集まりならいざ知らず、知り合いのいない同窓会に出かけていくということは勇気のいるものです。しかし、地方に住んでいる者にとっては出身大学との繋がりは地域の支部の同窓会だけですし、みなさんを迎える主催者側もそれなりに工夫され、趣向を凝らして多くの方の参加をお待ちしているのです。主催者の一人として言わせていただければ、1回来るだけでは友達を作るまでいきませんが、複数回参加されると名前も顔もわかるようになり、同窓会とは結構居心地の良いものなのです。5月の終わりから各地で同窓会が開かれます。勇気を出して一度地域の同窓会に足を運んでみてはいかがでしょうか？

### 支部日誌

- 1月 不況の影響で東京に転出した同窓生が数名いたことが判る。残念。
- 1月27日 居酒屋で役員を集め新年会。本部より提案のあった函館で同窓会を開くことを検討。ちょっと難しいという結論になる。副支部長にそれぞれの担当を決める。
- 7月24日 札幌ツキサップゴルフ場にて懇親ゴルフ開催
- 7月24日 札幌大倉山ジャンプ場にて同窓会を開催。
- 10月 札幌市円山動物園の酒井園長が電通大出身(53P)と判り、何とか仲間に入れてもらうための方策を考える。
- 10月22日 酒井さんと呼んで居酒屋で飲み会。役員と合わせて5名で口説く。
- 10月31日 支部HPのアクセス数が初めて月間

5000を越える

12月9日 三川屋会館にて忘年会を開催。7月23日に同窓会を開くことを決定

支部HPと同窓会の様子

じゃあ一体同窓会はどんな様子なんだ？どんな同窓生が集まっているんだ？おもしろそうか、退屈そうか？それは全て支部のHPにてご覧いただけるようになっています。北海道支部HP <http://megurokai-h.jugem.jp/> にアクセスしてみてください。目黒会 北海道でもすぐに検索できます。

北海道支部では2006年に支部のHPを立ち上げ4年が経過しました。ただ見るだけではなく、同窓生にIDとパスワードを配布し、自分で自由に投稿できる仕組みを作って運用していますが、北海道の同窓生は忙しい現役世代が多く、なかなか投稿していただけないのが現状です。そういう中で、小樽に在住の杉目暁先輩（一高1期）がご自身の体験を中心に母校の黎明期の話や、卒業生が海上通信などの現場で活躍されている話などをトンツー談義というシリーズもので数多くご投稿いただき、すでに50話近くになります。こういった積み重ねの効果があつたのかもしれませんが、10月には月のアクセス数が初めて5000件を突破することができました。今後は支部という枠を超え、全国におられる同窓生のネット上の交流の場として育てていきたいと考えています。ご興味がおありの同窓生には、IDやパスワードを付与いたしますので、私までご連絡下さい。（[umezawa@umezawa.co.jp](mailto:umezawa@umezawa.co.jp)）よろしくお願ひします。

北海道支部長（51B）梅沢無線電機株  
代表取締役 梅沢 英行

関西総支部「秋の懇親会」



平成22年10月30日、目黒会関西総支部の秋の懇親会を行いました。今回は「秋の海（明石大橋）空（天文科学館）ワインを楽しもう！」と題して兵庫県方面の散策ポイントを訪れました。

前日まで台風14号が関西地方に接近しており直撃を心配していましたが、当日は雨、風ともにほとんどなく、無事終えることができました。

今回はご家族・お子様含め計16名の参加。JR大阪駅に9時に集合し、マイクロバスで出発。まずは明石に到着。ここでは明石市立天文科学館の見学、舞子公園、海上プロムナード散策などを行いました。橋の科学館では説明員の方から明石海峡大橋の設計の経緯、興味深い技術などをご紹介いただきました。プロムナードでは明石海峡大橋から眼下に海面を望むことができました。

舞子を後にして、次に向かうは神戸市立農業公園（神戸ワイナリー）です。ここでは皆さんお待ちかねの昼食のパーベキューです。すでに焼肉、野菜、おにぎりなどが用意されていました。もちろんビール、神戸ワインも準備済みです。大人も子供もリラックスして昼食を楽しめました。

最後に訪れたのは、神戸市立フラワーパークです。綺麗な花を使った「こうべ花絵じゅうたん」では鉄人28号をモチーフにした美しい花のアレンジを見ることができました。

18時には大阪駅に着いて解散。皆様のご協力ですべて楽しい懇親会とすることができました。ありがとうございました。

（H02ME 秋吉恒一郎/記）



## H22 東海支部総会



平成22年11月6日(土)、目黒会東海支部総会が名古屋市港区「名古屋港ポートビル」で開催されました。来賓に、大学から春日正好理事、目黒会本部から安田耕平会長、野々村欽造副会長、金屋栄常任理事、江尻貞明事務局長をお迎えし、同窓生25名が集いました。本年も本部事務局から当地区の多数の会員の方へ総会・懇親会の案内を送付していただいたこともあり、新たに参加いただいた方も含め幅広い年代の方に参加いただきました。

来賓の方々からは目黒会の現況や大学、調布の状況、移り変わりについてご紹介いただき、参加者それぞれの学生時代の懐かしい話題や近況など懇談しました。懇親会は名古屋港の夜景を眺めながらのパーティで、今年も入港していた日本丸も眼下に見ることができ、楽しいひとときを過ごし、再会と今後の盛会を祈って散会としました。

(水野良之/記)



## 「リサーチ35の会」卒業50周年記念会



毎年11月の最終金曜日に開催される「リサーチ35の会」が恒例どおり佐藤洋名誉教授をお迎えして2010(H22)年11月26日の14時~17時に「ハルモニア」で開催されました。

会場が久しぶりの学内であったことやNHKの連ドラ「ゲゲゲの女房」の舞台が調布であったこともあり開催予定時間より早く大学構内はもとより、布田天神や深大寺周辺を散策し、思い出の「深大寺蕎麦」を懐かしんだ人たちも多くいました。

今回は卒業50周年記念の節目にも当たり遠くは九州や関西、岐阜、長野など遠方からの参加も多数あり、佐藤先生、ご同伴のご夫人6名の総勢59名という近來にない盛況でした。

また、今回初めて、10年振り或いはそれ以上に久しぶりの参加者もあり恒例の参加者共々お互いに大いに歓談、或いは昔に返って議論をして旧交を温め合い大変盛り上がった会になりました。

最後に記念撮影をし、来年の再会を誓い合いました。

住所等把握者107名(卒業者は139名)中今回参加者は52名と高い出席率でした。

なほ、記念撮影時の背後の字幕、開催気分を盛り上げた会場の入口の看板、案内ボードなどは「キャンパスクリエート」の安田社長さんのご好意に甘えさせて頂きました。

厚く御礼申し上げます次第です。

(RA桑嶋記)



## 電通大 38T(入学)クラス会報告



数十年振りにクラス会を開催しましたのでご報告いたします。昨年12月3日(金)新宿 飲食店(乃家)にて18名(44名中)の参加者を得て、クラス会を開催しました。

2時間半の限られた中、近況、家族、趣味などを2分以内でお願いしたのですが、最初から大幅に脱線し上記の記念写真を撮るのがやっと、肝心の次回幹事を決める機会を失ってしまいました。

会も30分を過ぎると、みな昔の人柄に戻り、性格は年を経ても変わらないことを実感しまし

た。また、目黒会会長 安田氏から最近の電通大活動状況をパンフレット付で説明を受け、その活躍に大いに元気付けられ、盛り上がりました。

その状況(音声、映像)は幹事 篠田氏のご尽力でCDに収め、各人に送付しました。

特に、今回参加出来なかった沖縄 渡久地氏が信州 石井宅を訪問していた写真や番場氏の海外旅行などが収録され、一体感溢れるCDが出来たかと思っております。

なお、卒業名簿と数十年前の資料を頼りに、個人情報保護と定年による環境変化(住所、会社電話番号、メールアドレス)の壁をクラスメイト・目黒会のご支援で点から線とつながり、37名(44名中)が判明しました。

これからは残り7名の住所を埋めることおよび個人的事情、幹事の都合で参加出来なかった方々に、是非、次回は参加して頂けるよう努力したく思っております。

(記 昭和38年電波工学科入学 煙草英一)

### 投稿案内

薄謝進呈

## CHOFU Networkでは 会員の皆様の投稿原稿を募集しています。

恩師や学友との交流、懐かしい思い出、会員の皆様にぜひ知らせたいニュースやご意見など、ふるってご応募ください。

\*掲載原稿には薄謝をお送りいたします。

\*ご投稿原稿は、写真を除き返却いたしませんので、予めご了承ください。

\*掲載号については編集部にご一任ください。

次号締切 / 平成 23 年 9 月末日

投稿宛先

### 目黒会事務局

〒182-8585 東京都調布市調布ケ丘1-5-1 電気通信大学内

TEL.042-482-3812 FAX.042-482-3845 info@megrokai.or.jp

## 寄付

留学生寄付							
大場 純二	昭和20	一高4	¥4,000	小島 宏夫	昭和29	学別	¥5,000
生井 孝幸	平成3	MC	¥5,000	佐々木大輔	平成22	MT	¥2,000
二川 義信	昭和19	二高1	¥20,000	佐藤 至弘	昭和15	選	¥1,000
船木 照雄	昭和28	B	¥2,000	菅谷 裕治	昭和55	JS	¥10,000
				千葉 洋助	昭和55	JT	¥4,000
				道阪 修	昭和19	大選乙	¥5,000
				鳥羽 孝夫	昭和45	C	¥7,000
一般寄付				中村 方士	昭和41	RB	¥4,000
荒井 薫	昭和59	E	¥10,000	松井 敬芳	昭和50	P	¥5,000
伊藤 博	昭和40	M	¥2,000	武藤 政義	昭和17	本	¥1,000
遠藤 達三	昭和29	R	¥3,000	匿名			¥2,000
大田 晃	昭和28	T	¥10,000				
海宝 正安	昭和26	新本	¥5,000				

## 訃報

中野 茂昌	昭和15	選	2010/11/27	加藤 昭夫	昭和22	通専	2010/7
相良 信夫	昭和16	本	2010/12/6	矢島 俊一	昭和22	技専	2010/11/22
永井 信夫	昭和16	本	2010/10/20	大井 晃	昭和26	新本	
小高 武久	昭和19	一高1	2010/3/21	小泉 浩	昭和26	新本	2010/4/27
風間 一男	昭和19	一高1	2010/7/27	小沢 兌治	昭和26	別高	
若松 英而	昭和19	一普3	2010/3	岩下 重郎	昭和29	R	2010/7/11
井波 眞	昭和19	三普3	2010/10/17	山本 重雄	昭和30	B	2010/9/25
玉井 春雄	昭和19	大実丙	2010/10/28	由利 健次	昭和32	R	2010/5/16
深津 敏夫	昭和19	大選丙	2010/11/24	百瀬 靖彦	昭和33	学別	2010/11/8
布施 千秋	昭和20	一高2	2010/3/23	森 繁	昭和35	B	
秋山 俊夫	昭和20	一高3	2010/8/17	横田 実固	昭和35	RB	
大澤 光夫	昭和20	一高3	2011/3/27	中川 稔規	昭和35	T	
則末 一郎	昭和20	一高3	2010/5/14	岸本 英嗣	昭和36	T	2011/2/8
三石 久次	昭和20	一高5	2010/1/14	斎藤 義進	昭和42	T	
窪田富士雄	昭和20	一普6	2010/10/12	八ッ波清司	昭和46	B	2010/7/3
庭山 博史	昭和20	三普5	2009/9/20	市川 典仁	昭和58	T	2010/10/19
穴戸 清	昭和20	大特普	2010/11/7	足羽 博明	昭和61	T	2009/8/5
谷田 盛人	昭和20	大特普		大槻 一雅	昭和62	MP	2011/2/24
江藤 聰	昭和20	二高4	2007/4	三船 則昭	平成13	E	2009/11/4
佐々木正雄	昭和21	三高5	2010/7/8	菅原 健二	平成18	T	2010/7/1
安田喜代治	昭和22	観業別	2010/1/21	宅間 宏		名誉教授	2010/12/27
井上 好文	昭和22	通専	2010/10/15				

## 編集後記

東日本大震災で犠牲になられた方々のご冥福をお祈り申し上げます。

また、被災された多くの方々に心よりお見舞い申し上げます。

東北支部からの連絡では、震災後の支部の方々の安否は確認できたそうで、安堵する一方、本誌6ページに掲載した荒井薫氏撮影の写真を目にし、現場の脅威は想像を絶するものだったのではないかと推察致します。

目黒会では、6ページ記載の要領で会員各位からの義援金を受け付けております。

会員各位の善意を被災された方々にお届けしたいと存じますので、ご協力のほど、何卒よろしく

お願い申し上げます。

梶谷先生の巻頭論壇にもあるように、電気通信大学もまた、今回の震災で様々な問題に遭遇しております。大学が一日も早く従来の状態に戻り、今後一層の発展に向けて歩みを続ける上で、会員各位の倍旧のご支援をお願いする次第です。

“私たちにできること”は何かを改めて考えつつ、私自身も微力ながら取り組んでいきたいと思う昨今です。

(CHOFU Network 編集長 大橋正己)

## 会報に広告を掲載しませんか

御社の企業広告、或いは、即戦力としての中途採用広告の掲載をお待ち致しております。

発行部数：33,000部（4月）  
13,000部（11月）

配布先：卒業生、教職員、賛助会員  
（11月は正会員のみ）

発行日：年2回（4、11月）

### 【広告掲載料金】

表紙の4（4色1ページ） ..... ¥300,000

表紙の3（4色1ページ） ..... ¥300,000

本文カラーページ..... ¥250,000

連続掲載の場合の料金は別途ご相談ください。

詳細については事務局へお問い合わせください。

電気通信大学同窓会

## 社団法人 目黒会

〒182-8585 東京都調布市調布ヶ丘 1-5-1 電気通信大学内

TEL:042-482-3812 FAX:042-482-3845

E-mail: info@megrokai.or.jp

発行日 平成 23 年 4 月 22 日

発行人 目黒会

編集人 大橋正己

本誌の記事を無断で転載することを禁じます

### 目黒会ホームページ

URL <http://www.megurokai.jp/>

## 広報委員会委員名

委員長

大橋 正己

副委員長

高橋 真之

委員

野々村 欽造 根本 貞臣

富沢 一郎 松井 義明

小柳 洋 長崎 佐吉郎

田中 宏昌 江尻 貞明（事務局長）

川島 廣海 中谷 敬郷（副事務局長）

近藤 俊雄

次号(23-2)の発行は2011年11月下旬の予定です。

# NEW STAGE

## 第4回

酒井 裕司さん

(物理工学科 1979 年卒)

## 動物園は 現代の「ノアの箱舟」

北海道の動物園と言えば? 「旭山動物園!」というのが、昨今の一般の方々の反応だろうと思いますが、実は札幌市には北海道の動物園では最も歴史が古く、今年開園 60 周年を迎える円山動物園がご紹介します。

一昨年(2017)の4月、私はこの札幌市円山動物園の園長に着任いたしました。札幌市職員となりましてから30年余り。交通事業や病院事業、第3セクター、民間企業、霞が関への派遣など、あまり市役所らしいところには席を置いたことのない私でありましたが、さすがに「動物園長」という辞令には「驚愕」という言葉しかありませんでした。

園長になって、一番戸惑ったのは、「旭山ブーム」の影響か、何かと動物園に注目が集まり、私のような新米園長でもマスメディア対応が大きな役割となっていることでした。園長着任わずか1ヶ月で地元テレビ局の密着取材番組に引っ張りだされたのにはひどく面喰ってしまいましたが、おかげで無愛想と言われていた私が、今ではカメラを向けられると自然に笑顔を作ることができるようになったのには自分でも驚いております。

現在の動物園は単にレジャー施設ということだけではなく、外から見ているよりもはるかに多くの役割を担っています。特に、世界的な環境悪化が進む中で、その犠牲者でもある動物たちの展示を通じて環境保全の大切さを伝える「環境教育の場」としての役割は非常に大きなものになってき

ています。そして、こうした絶滅危惧種の動物たちの生息域における急激な減少に緊急避難的に対応するための、動物園はある意味「ノアの箱舟」であり、その使命感をもって職員たちは動物の健康管理や繁殖、そして野生復帰などに取り組んでいます。

そして、この「ノアの箱舟」は、決して一隻だけでは機能できません。全国、全世界の動物園や水族館と連携し、ネットワークを構成しながら種の保存に取り組まなければならないのです。園長はいわば、「箱舟」の船長でもあり、同時に外部とコミュニケーションを図る通信士の役目も担います。

昨年のクリスマス、当園では6頭目となるホッキョクグマの赤ちゃんが誕生し、現在順調に育成中です。

このことが一つの切掛けとなり、本年3月、当園を含む全国8つの動物園が連携しホッキョクグマの繁殖を目指す大移動を実施しました。これは21世紀になってから国内のホッキョクグマは急速に減少しており、この間、自然繁殖に成功しているのは当園の5頭だけという危機的状態を脱するためのプロジェクトです。動物を貴重な共通の財産として流動的に捉え、これまで各動物園で固定化していたペアを組みかえて、繁殖に向けてチャレンジしようという画期的な取り組みと言えます。当園からは旭山動物園へ1頭のメスが移動し、逆に豊橋動植物園から別のメスを1頭受け入れます。こうした動きを仕掛け、調整するのも園長の重要な役割の一つなのです。

この4月、国内ただ1頭のホッキョクグマの赤ちゃんを公開いたします。愛くるしい様子をご覧くださいただけですので、札幌へお越しの際は、是非円山動物園へ足をお運びください。

